

目次

基本的な考え方

I 研究の背景	1
II 研究主題	1
III 研究の内容（4つの提案）	2

実践事例

◆ 実践事例の読み方	6
◆ 本研究の実践事例における「学び方」のプロセス一覧	8
◆ 実践事例	
<実践事例 1> 生かす 小学校 国語	10
<実践事例 2> 生かす 小学校 社会	12
<実践事例 3> 生かす 小学校 算数	14
<実践事例 4> 生かす 小学校 理科	16
<実践事例 5> 生かす 小学校 生活	18
<実践事例 6> 学ぶ 小学校 音楽	20
<実践事例 7> 学ぶ 小学校 体育	22
<実践事例 8> 学ぶ 小学校 特別の教科 道徳	24
<実践事例 9> 生かす 小学校 総合的な学習の時間	26
<実践事例 10> 学ぶ 小学校 特別活動（児童会活動）	28
<実践事例 11> 生かす 中学校 国語	30
<実践事例 12> 生かす 中学校 社会	32
<実践事例 13> 生かす 中学校 数学	34
<実践事例 14> 生かす 中学校 理科	36
<実践事例 15> 学ぶ 中学校 音楽	38
<実践事例 16> 学ぶ 中学校 美術	40
<実践事例 17> 生かす 中学校 技術・家庭（技術分野）	42
<実践事例 18> 生かす 中学校 外国語	44
<実践事例 19> 生かす 中学校 総合的な学習の時間	46
<実践事例 20> 学ぶ 中学校 特別活動（学級活動）	48

講師資料

◆ 問題発見・解決能力の育成	50
----------------	----

研究のまとめ

◆ 研究のまとめ	52
----------	----

基本的な考え方

I 研究の背景

1 問題発見・解決能力が求められる背景

これからの社会は、急速な変化により予測が困難な時代であり、私たち一人一人、そして社会全体が答えのない問いにどう立ち向かうのかが問われている。特に、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことが求められている。

このような時代にあって、学校教育には、主体的に学び、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を育てていくことが求められている。また、子供たち一人一人が ICT も活用しながら、自立した学習者として学び続けていけるよう、学びを充実させることが求められている。

2 学習の基盤となる資質・能力としての問題発見・解決能力

学習指導要領（平成 29 年告示）では、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が強調され、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力等を育むことの重要性が示されている。学習の基盤となる資質・能力として、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を挙げている。

その中で、問題発見・解決能力については、各教科等において、問題を発見し、解決していく過程を重視した学びを通して、各教科等のそれぞれの分野における問題の発見・解決に必要な力を身に付けられるようにすることが求められている。

II 研究主題

本研究では、研究の背景を踏まえ、研究主題と目指す子供像を次のように設定した。そして、20 本の授業実践を通して見えてきた問題発見・解決能力を育成する授業の在り方について、4 つの提案をする。各提案の詳細は次頁の研究内容で示す。

<研究主題>

問題発見・解決能力の育成 ～各教科等の「学び方」のプロセスの具体化～

<目指す子供像>

主体的に問題を発見し、協働しながら**自立的に学び続ける**子供

<4 つの提案>

- 1 「問題発見・解決能力」の**定義と評価**
- 2 各教科等の「学び方」の**プロセスを具体化**
- 3 「学び方」の理解や自覚を重視した**子供の学び**
- 4 「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での**教師の役割**

Ⅲ 研究の内容（4つの提案）

1

「問題発見・解決能力」の定義と評価

定義

教科等の特性に応じた問題や課題を発見し、見通しをもって解決の方向性を決め、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、考えをまとめ・表現するために必要な資質・能力

<「問題発見・解決能力」を構成する資質・能力>

* 知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な力

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
問題発見	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題を見いだしたり、課題を設定したりするために必要な知識や技能 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題を見いだしたり、課題を設定したりする力 ■ 解決の見通しをもち、解決の方向性を決定する力 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 見通しをもって試行錯誤しながら、問題や課題を発見しようとする態度 ■ 自らの学習を振り返り、よりよく問題や課題を発見しようとする態度
問題解決	<ul style="list-style-type: none"> ■ 解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、考えをまとめ・表現したりするために必要な知識や技能 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 結果を予測しながら実行し、解決に向けて情報を収集・整理・分析する力 ■ 考えをまとめたり、表現したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主体的に他者と関わり、自らの学習を調整しながら、問題や課題を解決しようとする態度 ■ 自らの学習を振り返り、よりよく問題や課題を解決しようとする態度

教科及び単元等の目標に準じて、「問題発見・解決能力」を位置付けて評価

本研究では、まず、「問題発見・解決能力」を定義した。なぜなら、小学校及び中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編では、学習の基盤となる資質・能力のうち、言語能力と情報活用能力は具体例が参考として示されているが、「問題発見・解決能力」は示されていないからである。また、「問題発見・解決能力」を定義することで、具体的な子供の姿を想定し、「問題発見・解決能力」が育成されたかを評価できると考えたからである。

そこで、本研究として、「問題発見・解決能力」の定義を「教科等の特性に応じた問題や課題を発見し、見通しをもって解決の方向性を決め、解決に向けて情報を収集・整理・分析し、考えをまとめ・表現するために必要な資質・能力」とした。そして、言語能力や情報活用能力と同様に、<「問題発見・解決能力」を構成する資質・能力>を資質・能力の3つの柱で整理した。

また、本研究では、「問題発見・解決能力」の評価を「思考力、判断力、表現力等」に焦点化することとした。理由は、学校教育法で「思考力、判断力、表現力等」が「知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な力」と規定されており、本研究の「問題発見・解決能力」の定義そのものだからである。そして、教科や単元等の目標の「思考力、判断力、表現力等」に準じて、「問題発見・解決能力」を目標に位置付けて評価することとした。

「問題発見・解決能力」を単元の目標に位置付けた例

思考力、判断力、表現力等

<実践事例5> 小学校 生活 「なつが やってきた」

問題発見

生活科における問題発見
「思いや願いをもつ」

問題解決

- 結果を予測しながら実行し、解決に向けて情報を収集・整理・分析する力
- 考えをまとめたり、表現したりする力

単元の目標

(略)、夏とその他の季節との
違いや特徴を見付けたり、遊び
や遊びに使う物を**工夫してつ**
くったりして、(略)



* 「問題発見・解決能力」を位置付けた部分を赤字で示す。

2

各教科等の「学び方」のプロセスを具体化

「問題発見・解決能力」を育成するプロセス = 「学び方」のプロセス

＜本研究における研究全体としての「学び方」のプロセス例＞



各教科等の「学び方」のプロセスを具体化

「問題発見・解決能力」は、どのようなプロセスを通して育成するのかという視点から、「問題発見・解決能力」を育成するプロセスを「学び方」のプロセスとして位置付け、研究全体として例示した。具体的には、「問題発見・解決能力」の定義（①教科等の特性に応じた問題や課題を発見し、②見通しをもって解決の方向性を決め、③解決に向けて情報を収集・整理・分析し、④考えをまとめ・表現するために必要な資質・能力）を基に、【①「課題の設定」➡②「予想・見通し」➡③「課題の追究」➡④「結論・振り返り」】という問題発見・解決のプロセスとして例示した。

検証授業では、研究全体としての「学び方」のプロセス例を参考に、各教科等の特性や学習過程、子供の実態や発達の段階を踏まえて、各教科等の「学び方」のプロセスを具体化することを試みた。「学び方」のプロセスを具体化する際、各教科等における「問題」や「課題」、「問い」とは何かを明確にするとともに、子供たちが分かるキーワードで示すことを大切にされた。また、各教科等で示されている学習過程をベースにしつつ、教科等横断的な視点で汎用性のある言葉で表した。

「学び方」のプロセスを具体化した例

＜実践事例6＞小学校 音楽 「和音の響きを感じてチャイムをつくろう」

音楽の学習過程例

- ①生活や社会の中の音や音楽と出会う
- ②知覚する、感受する
- ③思いや意図をもつ
- ④音楽で表現する
- ⑤意味や価値などを自覚する



音楽における「学び方」のプロセス

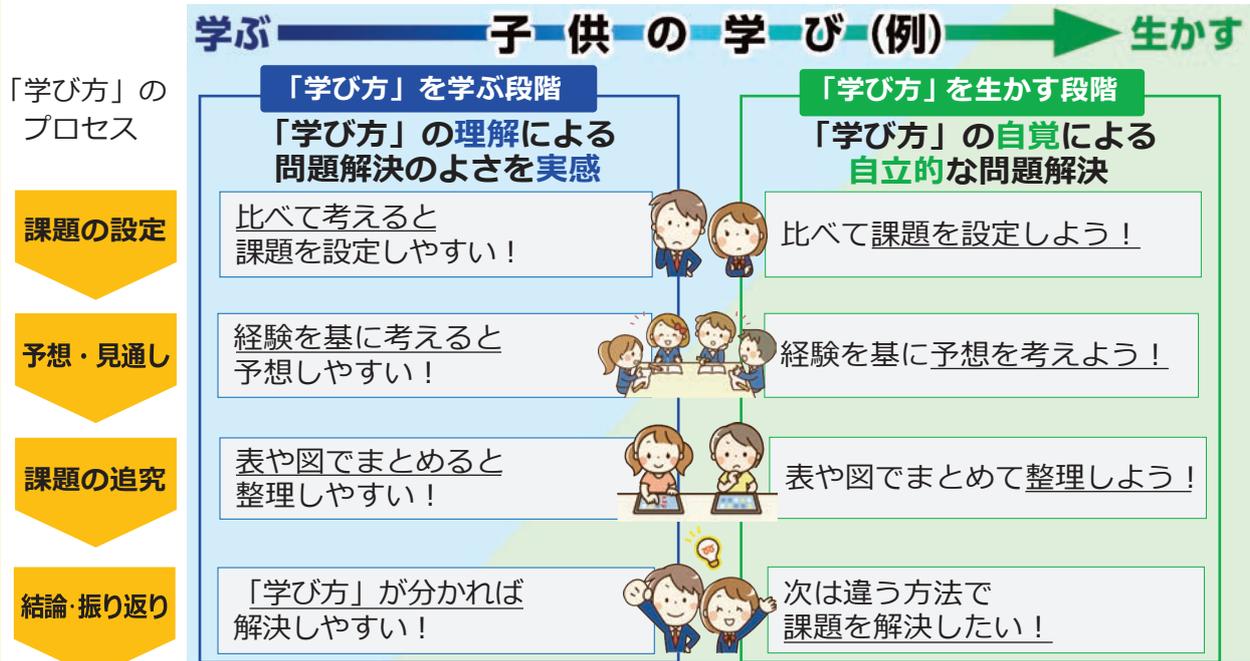
問題発見	課題の設定	①探してみよう
	予想・見通し	②聴いてみよう ③イメージしよう
問題解決	課題の追究	④表現しよう
	結論・振り返り	⑤振り返ろう

* 本研究の実践事例における校種ごとの各教科等の「学び方」のプロセスの一覧 (P.8～P.9) 参照

3

「学び方」の理解や自覚を重視した子供の学び

「学び方」の理解と自覚を重視した「学び方」を学ぶ段階と生かす段階の学びを想定



提案1と提案2を踏まえ、「問題発見・解決能力」を育成する授業づくりについて、本研究では、単元等の内容やまとまりで、「学び方」のプロセスに促して子供たちが自身が「学び方」を学ぶ段階と、「学び方」を生かす段階での子供の学びの姿を想定した。特に、「学び方」を学ぶ段階では、子供たちが「学び方」を理解することで、問題解決のよさを実感できることを重視した。「学び方」を生かす段階では、子供たちが「学び方」を自覚することで、自立的に問題解決できることを重視した。

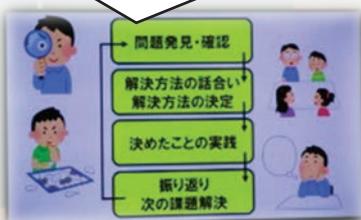
例えば、「課題の設定」では、「比べて考えると課題を設定しやすい！」と実感した子供は、その後、自ら「比べて課題を設定しよう！」とする姿が想定できる。「結論・振り返り」では、『「学び方」が分かれば解決しやすい！』と実感した子供は、「次は違う方法で課題を解決したい！」と自立的に問題を解決しようとする姿が想定できる。

検証授業では、「学び方」のプロセスを可視化したり、子供にとっても分かりやすいようにプロセスを説明したりすることで、子供たちが「学び方」を理解できるようにした。また、「振り返り」の場面で学習内容だけではなく、「学び方」を振り返ることで、子供たちが問題解決のよさを実感したり、「学び方」を自覚したりすることができるようにした。

「学び方」を学ぶ段階での子供の姿(例)

<実践事例 20> 中学校 特別活動(学級活動) 「よりよい学級生活にするために」

学級目標と関連させて、「学び方」のプロセスを例示しながら説明



「学び方」のプロセスを理解した上で話し合うことで、問題発見・解決のよさを実感

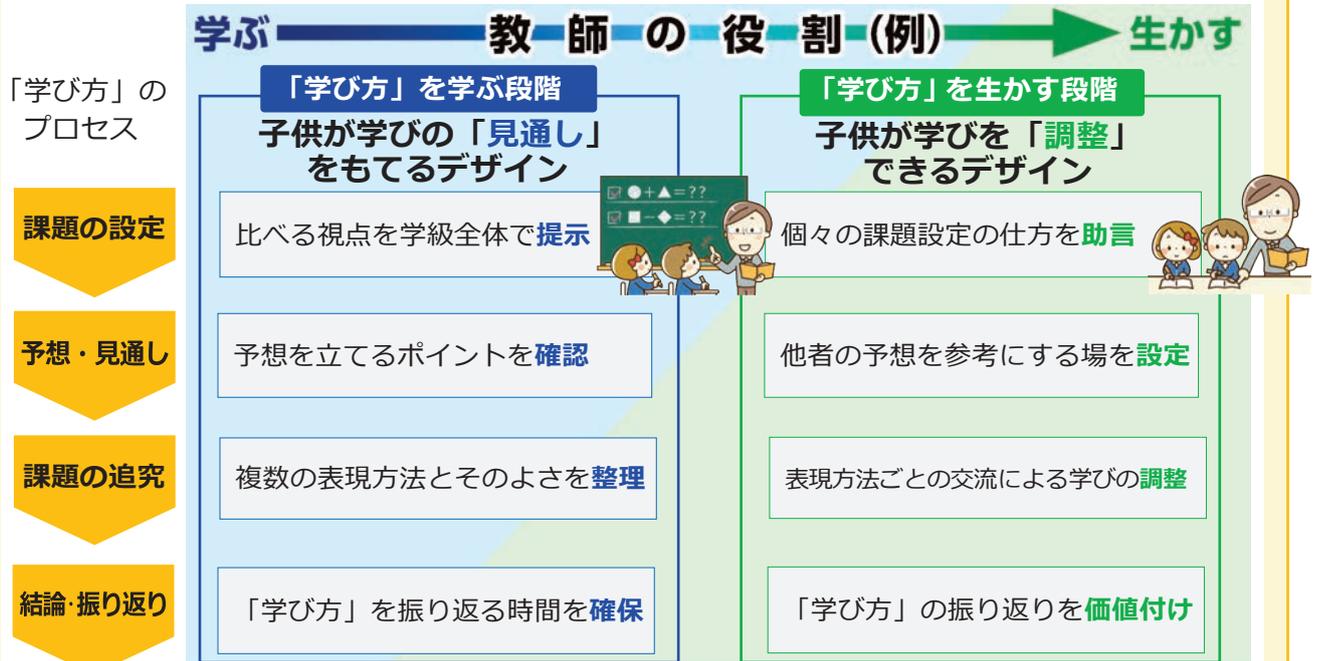


- 学級生活をよりよくするために問題を見付ける姿
- 「議題」を自分事として捉え、その解決策を考える姿

4

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

単元等の内容や時間のまとまりで「学び方」を学ぶ段階と生かす段階をデザイン



本研究では、提案3で子供たちの学びの姿を具体的に想定するとともに、教師の役割に着目した。具体的には、単元等の内容や時間のまとまりでデザインを考え、「学び方」のプロセスに促して教える段階から支える段階へ意識した教師の役割を追究してきた。特に、「学び方」を学ぶ段階では、子供たちが学びの「見通し」をもてるデザイン、「学び方」を生かす段階では、子供たちが学びを「調整」できるデザインを中心に教師の役割を考えた。

例えば、「課題の設定」では、学ぶ段階で「比べる視点を学級全体で提示」することで見通しをもてるようにし、生かす段階で「個々の課題設定の仕方を助言」することで子供たちが学びを調整できるようにすることを目指した。「結論・振り返り」では、学ぶ段階で「『学び方』を振り返る時間を確保」し、生かす段階で「『学び方』の振り返りを価値付け」することで、子供たちが自立的に学び続けることができるようにすることを目指した。

検証授業では、「学び方」を学ぶ段階で見通しをもって学習に取り組むことができるように、学級全体の単元のゴールだけではなく、子供たち一人一人が単元のゴールを設定できるように場を設定したり、ポイントを提示したりした。また、「学び方」を生かす段階で3つの学びの調整（教師、友達同士、自分自身）ができるように助言したり、価値付けたり、個別に声を掛けたりした。

「学び方」を生かす段階での教師の役割（例）

<実践事例 17> 中学校 技術・家庭（技術分野） 「SNSプログラムをつくろう」

「学び方」のプロセスを踏まえたワークシートの活用



- 教師による意図的な助言
- 友達と互いに作品交流
- 振り返りを個別に価値付け



生徒の「もっとこうしたい」と思うような場面の設定

実践事例

◆ 実践事例の読み方

1

「問題発見・解決能力」の定義と評価

本研究における「問題発見・解決能力」を**定義**し、各教科等の目標「思考力・判断力・表現力等」に焦点化し、「問題発見・解決能力」を位置付けて**評価**した。

「問題発見・解決能力」を単元等の目標の「思考力・判断力・表現力等」に位置付けている部分を**赤太字**で示している。

<実践事例5>

小学校 第1学年 生活 「なつが やってきた」

単元の目標

夏の自然を観察したり、身近にある物を作ったりする活動を通して、夏とその他を見付けたり、遊びや遊びに使う物を**工夫してつくったり**して、夏の自然の様子やを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

2

「学び方」のプロセスの具体化

各教科等の特質や発達の段階等を踏まえて、「学び方」の**プロセスを具体化**した。

P.8、P.9に、本研究の実践事例における校種ごとの各教科等の「学び方」のプロセスの一覧を掲載している。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①見つけよう 【自分の思いや願いをもつ】 ・身近な自然や素材と遊ぶことを通して「しりたい」「やりたい」
	予想・見通し	②計画しよう ・体験したことを振り返り、より遊びを楽しくしたり、季節と仲良し学習計画を立てる。
問題解決	課題の追究	③やってみよう 【活動や体験をする】 ④感じよう・考えよう 【感じる・考える】 ・自分たちで計画した遊びに没頭する。
	結論・振り返り	⑤表そう 【表現する・行為する（伝え合う・振り返る）】 ・遊びを振り返り、気付いたことを言語化する。

「学び方」のプロセスを、子供が理解できるようにするために、**発達段階に応じた表現**にしている。

【 】内の表現は各教科等の学習指導要領等に示されている、学習過程を表している。

次頁掲載の本時の学習場面を**太枠（青枠：学ぶ、緑枠：生かす）**で囲んでいる。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ		生かす	
<本単元> 第1～6時 「校庭の夏探し探検をしよう」 「雨(雨あがり)の校庭探検をしよう」		<本単元> 第7時～14時 「夏と遊ぼう」 「楽しかったことを振り返ろう」	
プロセス	<ol style="list-style-type: none"> ・就学前の夏遊びの経験を共有し、自分の夏のイメージを可視化(言語化)できるようにする。(夏あつめ等) ・夏と自分の関わりをどのように発展させたいかイメージ化を促す。そのために、どのような遊び(活動)をしたいのか、学級全体で単元の学習計画を立てる。 ・校庭の草花を見付けたり、樹木の様子を見たり、生き物を探したり、それらの様子を観察したりしながら自分たちのイメージを表現したりして新たな気付きに着目できるように促す。(夏探しビンゴ等) ・草花や樹木を利用して遊びを工夫したり、遊びに使うものを工夫してつくったりして、気付いたことを言語化させることで気付きを自覚できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールイメージがやりたい夏遊びを具現化し、言語化する場を設定し、 ・集めた素材を使って、夏を遊ぶ中で、気付いたことのように、個別に問い掛けながら学びをつなぐ。 ・身近なものを利用して遊びに使うものを工夫して、気付いたことを言語化できるように、活動中の写真、音声メモを基に表現でき 	
教える	教師の役割		

4

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

「学び方」のプロセスに即して、「学び方」を**学ぶ段階**では、子供が学びの「見通し」をもてるデザイン、「学び方」を**生かす段階**では、子供が学びを「調整」できるデザインを考え、教師の役割を示した。

本時の学習場面が「学び方」を学ぶ段階か生かす段階かを示している。

本時の学習場面が「学び方」のプロセスの具体化の、どの場面に位置付けているかを示している。

本時や本単元での「問題発見・解決能力」を育成するための主な学習活動における子供の学びの姿を示している。

本時：生かす段階「③やってみよう」「④感じよう・考えよう」の場面

目標（第8時／全14時間）

●学習活動 ・教師の役割

比べたり、試したりしながら、夏の遊びを工夫して楽しんでいる。

- 前時を振り返り、本時のめあてを決める。
 - ・ めあては、子供たちから出たキーワードを基に確認しながら決める。
- 水、シャボン液などを使って、遊びに使える素材等を確認めながら、素材遊びを楽しむ。
 - ・ どの素材が、どんな遊びに適しているのかなどを確認めながら遊べるように声を掛けていく。
 - ・ 友達と関わり合って活動を広げていけるように、活動場所が見渡せるように配置を工夫する。
 - ・ 友達と相談したり、自分でメモをしたりできるミニ机を用意する。
 - ・ 活動中は「①何をしようとしているのか ②何に気付いたのか ③困っていること」などを、個別に聞き取りながら、活動を広げるために同じ考えの友達とつなげたり、ヒントとなる活動をしている友達の様子を見るなどの声掛けをしたりして、個から全体へと学びをつなげていく。
- 本時を振り返り、協力して片付けを行う。
 - ・ 本時のめあてを振り返り、全員がめあてを達成できたのかを確認する。

気付きを共有し言語化する姿

- 材料の特性を考えながら、自分が考えた夏の遊びを楽しんでいる。



- 遊んでいる途中で、気付いたことをメモしたり、友達と気付きを共有したりしている。



- 困ったときは、友達に相談して活動している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から友達と関わり合って学ぶことの楽しさに気付き、活動に取り組んでいた児童が、単元を通して、気付いたことを言語化し、気付きと気付きを結び付けながら学習に取り組むようになった。思いを大切に遊びを楽しむ一方、気付きの言語化が未熟であった児童が、教師が気付きを価値付けたり記録したりして、振り返りの時に提示することで、気付きを言語化できるようになった。学級全体として、単元のゴールイメージをもち、自分たちで作った「学び方」のプロセスを1つ1つ進んでいくことで、学ぶことの楽しさを感じながら学習に取り組む児童が多かった。

実践の振り返りとこれからの授業

児童の思いや願いを大切にすることで、自分たちが設定した学びのゴールに向けて見通しをもって学習に取り組むことができた。一方、気付きの言語化が課題であったため、次単元でタブレットPCを活用したことで、児童が具体的に学びを振り返り、言語化できるようになった。今後も児童の思いや願い、学びのゴールイメージを大切にしながら、活動や体験を具体的に振り返られるようにする。

3

「学び方」を理解や自覚を重視した子供の学び

「学び方」の理解による問題解決のよさの実感や、「学び方」の自覚による自立的な問題解決を重視した子供の学びの姿を想定し、本時や本単元での問題を発見し、解決する子供の姿を示した。

◆ 本研究の実践事例における「学び方」のプロセス一覧

小学校

①○○○○ → 「学び方」のプロセス
【○○○○】 → 各教科等の学習過程

問題発見場面 問題解決場面

課題の設定 予想・見通し 課題の追究 結論・振り返り

国語	①単元のゴール設定 【題材の設定】 ②課題の設定 【題材の設定】	③学習計画 【題材の設定】 ④テーマ設定 【題材の設定】	⑤情報の収集 【情報の収集、内容の検討】 ⑥構成の検討 【構成の検討】 ⑦記述・推敲 【考えの形成、記述】【推敲】	⑧共有 【共有】
社会	①なぜ・疑問・気付き 【動機付け】	②学習計画 【方向付け】	③調べる・共有と交流 【情報収集】【考察・構想】	④まとめる 【まとめ】【振り返り】
算数	①何が知りたい？ 【問題の把握、問題の設定】	②どんなデータが必要？ 【データの想定、収集計画】	③データをまとめると？ 【データ収集、表への整理】 ④何が分かる？ 【グラフの作成、特徴や傾向の把握】	⑤まとめると？ 次はどうしたい？ 【結論付け、振り返り】 【データ収集、表への整理】
理科	①見つけよう 【自然事象への気付き】 ②問題 【問題の設定】	③予想 【予想や仮説の設定】 ④実験方法 【検証計画の立案】	⑤観察、実験 【観察、実験】 ⑥結果 【結果の処理】	⑦考察 【考察】 ⑧結論 【結論の導出】
生活	①見つけよう 【自分の思いや願いをもつ】	②計画しよう	③やってみよう 【活動や体験をする】 ④感じよう・考えよう 【感じる・考える】	⑤表そう 【表現する・行為する （伝え合う・振り返る）】
音楽	①探してみよう 【生活や社会の中の音や音楽と 出会う】	②聴いてみよう 【知覚する、感受する】 ③イメージしよう 【思いや意図をもつ】	④表現しよう 【音楽で表現する】	⑤振り返ろう 【意味や価値などを自覚 する】
体育	①やってみよう 【易しい運動から取り組む】	②考えよう 【自己の能力やチームの特徴 に応じて課題を選び、課題 解決のための活動を定める】	③試してみよう 【決めた運動に取り組む】	④振り返ろう 【成果を確認して振り返る】
特別の 道徳 教科	①問いをもつ 【問題意識をもつ】	②自分の考えをもつ 【自分の考えをもつ】	③様々な視点から考える 【多面的・多角的に考える】	④考えを深める 【自己の生き方についての 考えを深める】
学習の 総合的 時間	①見つめる 【課題の設定】	②見通す	③調べる 【情報の収集】 ④考える 【整理・分析】	⑤まとめる 【まとめ・表現】
特別 活動	①課題の発見 【問題の発見、議題などの選定】	②話し合い、合意形成・実践への 準備 【解決に向けての話し合い・解 決方法の決定】	③決めたことの実践 【決めたことの実践】	④振り返る 【振り返り・次の課題解決へ】

<各教科等の学習過程の参考文献>

- 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 各教科等編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
（平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会）

中学校

①○○○○ → 「学び方」のプロセス
 【○○○○】 → 各教科等の学習過程

	問題発見場面		問題解決場面	
	課題の設定	予想・見通し	課題の追究	結論・振り返り
国語	①内容の把握 【構造と内容の把握】 ②課題の設定 【構造と内容の把握】	③予想・見通し 【構造と内容の把握】	④精査・解釈 【精査・解釈】	⑤考えの形成 【考えの形成】 ⑥共有 【共有】
社会	①学習課題を設定する 【動機付け】	②予想を立てる 【方向付け】 ③視点を確認する	④探求する 【情報収集】【考察・構想】 ⑤記録する 【情報収集】【考察・構想】	⑥まとめる 【まとめ】 ⑦振り返る 【振り返り】
数学	①何が知りたい？ 【問題の設定】	②問題を解決するためには？ 【解決の計画】	③解決してみよう 【解決の実行】	④分かったことは？ 【解決過程や結果の振り返り】
理科	①気付き 【自然事象に対する気付き】 ②課題 【課題の設定】	③仮説 【仮説の設定】 ④計画 【検証計画の立案】	⑤観察、実験 【観察、実験の実施】 ⑥結果 【結果の処理】	⑦考察 【考察、推論】 ⑧表現 【表現、伝達】
音楽	①音楽と出会う 【生活や社会の中の音や音楽と出会う】	②見通しをもつ 【知覚する、感受する】 【思いや意図をもつ】	③創作しよう 【音楽で表現する】	④振り返ろう 【意味や価値などを自覚する】
美術	①主題を決めよう 【主題を生み出す】	②デザインを考えよう 【デザインの構想を練る】	③イメージ画を描こう 【意図に応じて表す】 【デザインを再構成する】	④作品を振り返ろう 【振り返り、まとめ】
技術・家庭 技術分野	①問題発見 【生活の課題発見】	②設計・計画 【解決方法の検討と計画】	③制作・修正 【課題解決に向けた実践活動】	④評価 【実践活動の評価・改善】
外国語	①Guessing/ Understanding 【目的の設定・理解】	②Outlooking 【目的に応じた見通し】	③Communication 【具体的なコミュニケーションの実施】	④Reporting 【まとめ・振り返り】
総合的な 学習の時間	①課題の設定 【課題の設定】	②見通し	③情報の収集 【情報の収集】 ④整理・分析 【整理・分析】	⑤まとめ・表現 【まとめ・表現】
特別活動	①見付けよう 【問題の発見・確認】	②話し合おう 【解決方法等の話し合い・解決方法の決定】	③やってみよう 【決めたことの実践】	④見直そう 【振り返り・次の課題解決】

<各教科等の学習過程の参考文献>
 ○ 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 各教科等編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
 ○ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成 28 年 12 月 21 日 中央教育審議会）

小学校 第6学年 国語 「6年生の主張！～生活をよりよくする意見文を書こう～」

単元の目標

- (1) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。
- (2) **目的や意図に応じて**考えたことから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして**伝えたいことを明確に**することができる。
- (3) **目的や意図に応じて**簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、**自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫**することができる。
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

「学び方」のプロセスの具体化 - 「書くこと」における「学び方」のプロセス-

問題発見	課題の設定	①単元のゴール設定 【題材の設定】 ・友達に自分の意見を伝えたいという思いをもつ。 ②課題の設定 【題材の設定】 ・説得力のある文を書くことについて自分の課題を設定する。
	予想・見通し	③学習計画 【題材の設定】 ・どのように学習を進めて書くとよいか、計画を立てる。 ④テーマ設定 【題材の設定】 ・資料を用いながらテーマを設定する。
問題解決	課題の追究	⑤情報の収集 【情報の収集、内容の検討】 ・根拠となる資料を集め、その資料の中から意見を述べる文章に必要な材料を選ぶ。 ⑥構成の検討 【構成の検討】 ・構成を確かめ、意見と根拠、理由に一貫性があるか、つながりを考える。 ⑦記述・推敲 【考えの形成、記述】【推敲】 ・文の書き方を確かめ、資料を引用しながら書き表し方を工夫して文章を書いたり、推敲したりする。
	結論・振り返り	⑧共有 【共有】 ・友達と文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ	子 供 の 学 び		生かす
プロセス	学ぶ ＜既習単元＞「随筆文を書こう」	学ぶ・生かす ＜既習単元＞「物語文を書こう」	生かす ＜本単元＞「6年生の主張！～生活をよりよくする意見文を書こう」
① ②	・学級全体で随筆を書く目的や相手を明確にし、自分の課題を 選ぶ ようにする。	・学級全体で物語を書く目的や相手を明確にし、自分の課題を 考え、決める ようにする。	・児童の日常のつづきから意見を述べる文章を書く単元を設定し、 個人 で書きたい相手を明確にし、自分の課題を 考え、決める ようにする。
③ ④	・学級全体で単元の学習計画を立て、思考ツールなどを用いて自分のテーマを 決める ようにする。	・既習事項の掲示物などを 振り返りながら 、 個人 で学習計画を立て、思考ツールなどを用いて自分のテーマを決めるよう 助言 する。	・既習の学習計画を 参考に 、 個人 で学習計画を立て、思考ツールなどを用いて自分のテーマを決めるよう 助言 する。
⑤ ⑥ ⑦	・学習過程ごとに「学び方」を 確認 し、 学級全体 で話し合いながら文章を書く場を 設定 する。	・ これまでに学んだ学習の進め方 を 振り返り 、 学級全体 で交流活動しながら文章を書くよう 促す 。	・既習の学習の 進め方 を 参考に 、 個々に合った方法 を選択し、 個々の必要に応じて 交流活動しながら文章を書くよう 助言 する。
⑧	・感想の視点を押さえ文章を読み合い、伝え合う場を 設定 する。	・ 学びを振り返り 、友達と文章を読み合い、感想を伝え合うよう 促す 。	・ 学びを振り返るとともに 友達と文章を読み合い、感想を伝え合うよう 助言 する。
教える	教 師 の 役 割		支える

本時：生かす段階「③学習計画」「④テーマ設定」の場面

目標（第2時／全7時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

学習の見通しをもって、自分の設定した課題を解決するために、**目的に応じた題材を選び、テーマを設定する**ことができる。

- 前時までの学習を振り返る。
 - ・ 前時の振り返りを見て、意見を述べる文章を書く目的や相手を明確にできるようにする。
- 意見を述べる文章を書く上で大切なことを共有する。
 - ・ 説得力のある意見を述べる文章を書く上で大切なことを**共有**し、「学び方」のプロセスごとに**整理**する。
- 自分の課題解決のための学習計画を立てる。
 - ・ **既習単元の学習計画や掲示物を参考**に、自分の学習の進め方を決めるように**助言**する。
- 学級全体で交流する必要がある場面を確認し、テーマ設定を進める。
 - ・ 自分の考えを明確にするために、友達との交流が必要になりそうな場面を出し合う。
 - ・ **これまで学習した**マッピング等の思考ツールを用いて、テーマを考えられるように**促す**。
- 本時の振り返りを行い、次時の学習の見通しをもつ。
 - ・ 学習内容と学習方法（「学び方」）について振り返り、次時の見通しがもてるようにする。

学習計画を立て、テーマ設定する姿

- 「学び方」のプロセスに沿って学習計画を作成している。



- 既習の方法を用いて題材を選び、テーマを設定している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から見通しをもって学習に取り組むことができていた児童は、単元の学習を通して、課題解決のために必要となる「学び方」のプロセスを理解し、交流が必要な場面を出し合うことができるようになった。

本単元前は、「学び方」のプロセスの理解が不十分だった児童は、個別に支援し、毎時間の振り返りを学習内容と学習方法の両面から捉えることで、見通しをもって学習に取り組めるようになってきた。

学級全体として、他教科等とも関連付けながら「学び方」のプロセスを常時掲示し、「学び方」を個々が選択できる場面を多く設定したことで、自分に合った方法を選択しながら、見通しをもって学習に取り組める児童が増えた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、自ら問いをもち学びを進めようとする児童が増えたことである。課題は、「学び方」のプロセスの適切なキーワードの設定であった。実践後も他の単元で児童の学びの姿を「学び方」と関連付けて価値付けたことにより、児童が自分の学びを自覚できるようになった。今後も教師の役割のバランスや言葉掛けを十分に考えながら自ら問題発見・解決できる児童の育成を目指していく。

実践事例

生かす

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

小学校 第6学年 社会 「戦国の世から天下統一へ」

単元目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、**人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して**、地図や年表、その他の資料で調べ、**戦国の世の統一を果たした織田信長、豊臣秀吉の役割を考え、表現することを通して**、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①なぜ・疑問・気付き 【動機付け】 ・これまでの児童の認識を揺さぶる事実との出会いにより、問いをもつ。
	予想・見通し	②学習計画 【方向付け】 ・既習事項を活用して、学習問題に対して予想する。 ・どのような資料が必要か考え、情報収集の見通しをもつ。
問題解決	課題の追究	③調べる・共有と交流 【情報収集】【考察・構想】 ・調べ方やまとめ方を考え、様々な側面から情報収集し、学習問題を追究する。
	結論・振り返り	④まとめる 【まとめ】【振り返り】 ・共有し、まとめた情報を基に自分の考えをもつ。 ・学習内容と自分の「学び方」について振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ		子供の学び		生かす	
プロセス	学ぶ	学ぶ	学ぶ	生かす	
	<前々単元> 「武士の世の中へ」	<前単元> 「今に伝わる室町文化」	<本単元> 「戦国の世から天下統一へ」		
	①	・一斉型の話し合い活動から比較する視点を 提示 し、共通点・相違点を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	・小集団の話し合い活動で子供の気付きや疑問を 共有 し、今に残る室町文化のものの共通点・相違点を見だし、学習問題をつくることができるようにする。	・長篠合戦図屏風の様子から、 一斉型の話し合い活動 で子供たちの気付きや疑問を 共有 し、共通点・相違点を見出し、学習問題をつくることができるよう 助言 する。	
	②	・学級 全体 で学習問題に対する予想を 分類・集約 し、調べる視点を 整理 する。	・学習問題に対する予想を子供たちが 分類・集約 する場を 設定 し、教師が 調整・整理 して視点をもてるようにする。	・為政者による統一政策を 想起 し、学習問題に対する予想を子供たちが 分類・集約 する場を 設定 し、調べる視点を見いだすことができるよう 促す 。	
	③	・資料を 一斉配布 し、課題追究のために必要な情報を調べるができるようにする。	・解決のために必要な資料を考える場を 設定 し、それを基に教師が資料を 配布 し、調べられるようにする。	・法政面、経済面、外交面に 分担 し、解決のために必要な資料を考える場を 設定 し、自分で収集して調べられるよう 促す 。	
④	・まとめ方を 提示 し、調べた情報をまとめることができるようにする。	・複数のまとめ方を 提案 し、 子供が自分で選択 できるようにして、調べた情報をまとめるようにする。	・学習に適したまとめ方を自分で考えるよう 促し 、調べた情報をまとめるよう 助言 する。		
教える		教師の役割		支える	

本時：生かす段階「②学習計画」の場面

目標（第2時／全6時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

信長や秀吉が天下統一を目指すまでの過程や理由についての学習問題に対して予想したり、調べる内容や調べ方について考えたりする活動を通して、**学習の進め方の見通しをもつ**。

- 長篠合戦図屏風の様子から気付いたことを振り返り、本時のめあてを決める。
 - ・ これまでの単元の進め方を振り返るよう**声掛け**する。
- 信長や秀吉はどのようにして戦国の世をおさめたのかについて話し合い、解決の見通しをもつ。
 - ・ 「学び方」を示したガイドに入力した予想をフォルダで**共有**し、児童同士で**閲覧できる**ようにする。
- 法政面、経済面、外交面と視点を明確にし、今後の学習の進め方について確認する。
 - ・ 学習問題について考えた予想を児童たちが分類・集約しながら、次時以降に調べていく**視点を明確化**する。
- 本時の振り返りを行い、次時の学習の見通しをもつ。
 - ・ 「学習内容」と「学習の進め方」（「学び方」）の2点について、振り返りの視点に沿って書けるように**助言**する。

自らの学習の進め方の見通しをもつ姿

- 学習問題に対して、具体的に予想している。

1. 問いをもつ・予想する
大坂に近かったからすぐに銃の情報が入り、信長が銃は強いと思いたくさん買った。そして銃専用の作戦や仲間との協力方法を考え、もともと作戦や戦い方を訓練していたからたかいを進めやすかった？



- 「学び方」を示したガイドや前時の板書記録を活用して、解決の見通しを立てている。

- 予想をどのように解決していくか、どのようにまとめていくかを具体的に書き表している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

単元終末の振り返りにおいて、二次元の表にして比較するまとめ方を意図的に取り入れたことで、共通点や相違点を見出し、具体的知識を概念化して捉えている様子が見られた。また、単元導入時に立てていた学習計画について、意見交流を通して学びを深める中で再検討し、よりよい学びになるように調整していこうとする姿勢が見られた。

学級全体として、「調べて予想を確かめる、交流し情報を共有する、共有した情報を基に学習問題に対する自分の考えを書く」という「学び方」を、児童が主体的に進めていくことができていた。

実践の振り返りとこれからの授業

学習計画の中で、まとめ方まで見通しをもたせることで単元を通して比較・関連付けなどの視点をもって学習問題を追究することができていた。一方で、問題発見をいかに児童が主体的に行っていくかということには課題が残ったため、今後、児童が自分たちの力で問いを見だし、予想を分類・集約できるよう指導していく。

小学校 第4学年 算数 「グラフや表を使って調べよう」

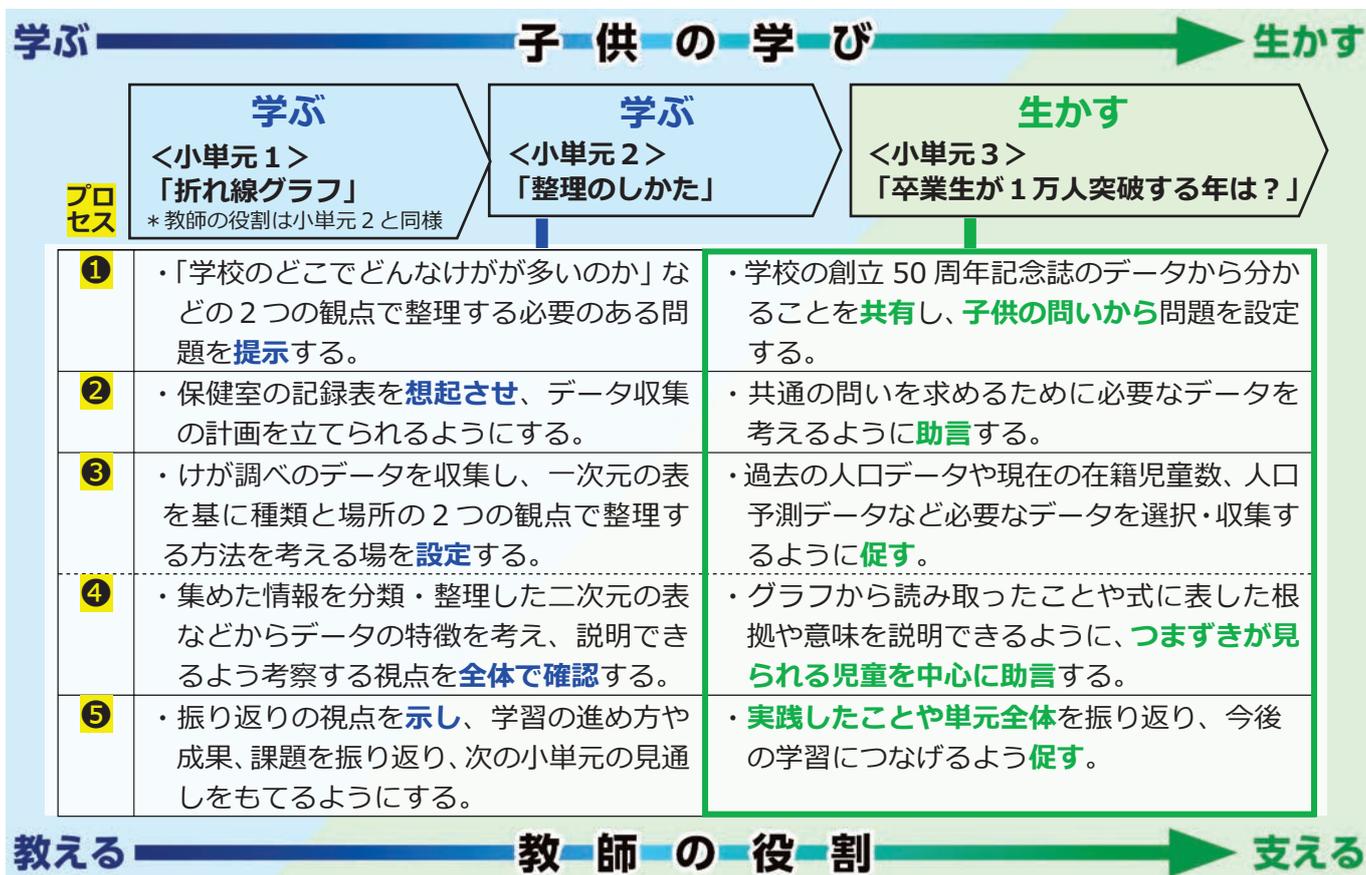
単元の目標

- (1) 折れ線グラフについて理解するとともに、表やグラフに表したりすることについての技能を身に付ける。
- (2) 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりすることができる。
- (3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を身に付ける。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①何が知りたい？ 【問題の把握、問題設定】 ・テーマや問いを設定し、解決すべき問題を考える。
	予想・見通し	②どんなデータが必要？ 【データの想定、収集計画】 ・問いの仮説を立て、問題を解決するために必要なデータは何かを考え、収集計画や問題解決の見通しを立てる。
問題解決	課題の追究	③データをまとめると？ 【データ収集、表への整理】 ・データを実際に収集し、データを整理する。 ④何が分かる？ 【グラフの作成、特徴や傾向の把握】 ・問題を解決するために適切なグラフや表を選択してグラフや表に表し、その特徴や傾向の把握・分析を行う。
	結論・振り返り	⑤まとめると？次はどうしたい？ 【結論付け、振り返り】 ・分析した結果を解釈し、問題の解決にかなうものであるか考察する。 ・結論を提示したり、新たな問いを設定したりする。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



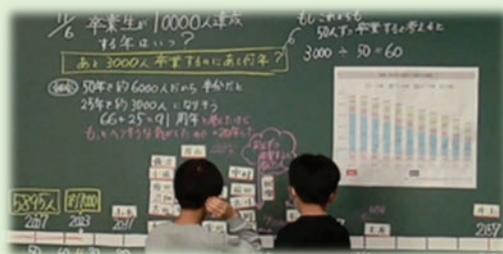
目標（第10時／全10時間） ●学習活動 ・教師の役割

日常生活の事象を、**データを基に予測したり、表や折れ線グラフを読み取ったり**する活動を通して**問題解決するために、データの特徴や傾向を捉え結論を考え、説明**することができる。

- 資料から読み取れることや問いを発見する。
 - ・ 現在と比べ、児童数の多さや減少傾向などの変化に**着目できるようにする**。
- 予測する根拠となるデータ収集の計画を立てる。
 - ・ 課題の解決方法について見通しをもって計画が立てられるように必要なデータは何か考えるよう**促す**。
- 必要なデータを選択し、問題解決に向けてデータを分類整理する。
 - ・ 教科書及び市のホームページ、人口予測の新聞記事などを利用できるように、**資料を共有**する。
- データから特徴や傾向を把握し、読み取ったことを表現する。
 - ・ 友達の考え方を聞くなどして最初の考えが変わった児童は、その理由を追記するよう**助言**する。
- 本時の振り返りを行い、次時の学習の見通しをもつ。
 - ・ 「学び方」のプロセスを自覚できるよう考えの変化や人口減少に関する考えを表現できる場を**設定**する。

データを基に考えを説明する姿

- 今後の児童数がどのように推移するかを予想する際に、どのようなデータや資料が必要であるか、収集する計画を立てている。



- 収集したデータや資料の分類整理を行い、互いの資料を共有している。



- 考えが変わった児童の根拠となる資料を提示し、式などで考えを表現している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から自分の意見をもつことができていた児童が、本単元で「学び方」のプロセスを意識したことで、必要なデータを考え、それらを踏まえて自分の意見をもつことができた。

本単元前は問題の解決に向け、データの特徴や傾向を読み取ったり考察したりすることが難しかった児童が、考察の視点を確認したり資料を友達と共有したりすることで、自分の考えを表現できた。

学級全体として、本単元前に比べ、データを踏まえて客観的に考察し、自分で考えたことを伝え合い、互いの考えを共有し、よりよい考えにしようとする姿が見られた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、児童の学びの意欲が継続する課題を設定することができ、児童が主体的に取り組む姿が見られたことである。課題は、根拠を言語化し共有化する場面の充実であった。本実践後の総合的な学習の時間において、学習課題の探究を行う際に本単元の「学び方」のプロセスを活用し、学習を進めることができた。今後も教材研究を大切にしながら児童が課題を解決したいと思える教材を考えていく。

小学校 第5学年 理科 「台風と天気の変化」

単元の目標

雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて、天気の変化の仕方を調べる活動を通して、それらについての理解を図り、観察、実験などに関する技能を身に付けるとともに、**主により妥当な考えをつくりだす力**や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①見つけよう 【自然事象への気付き】 ・事象比較や共通体験を通しての気付きを整理する。 ②問題 【問題の設定】 ・学級全体で解決する問題を設定する。
	予想・見通し	③予想 【予想や仮説の設定】 ・既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を立てる。 ④実験方法 【検証計画の立案】 ・予想を検証するための方法を考える。・結果の見通しを立てる。
問題解決	課題の追究	⑤観察、実験 【観察、実験】 ・検証計画に基づいて、観察、実験を行う。 ⑥結果 【結果の処理】 ・調べた結果を分かりやすく整理し、まとめる。 ⑦考察 【考察】 ・調べた結果を基に考察をする。
	結論・振り返り	⑧結論 【結論の導出】 ・より多くの人に支持される妥当性のある結論を導く。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ	子供の学び		生かす
	学ぶ		生かす
プロセス	<1学期> 「天気の変化」「植物の発芽・成長」		<2学期> 「台風と天気の変化」
①	・2つの事象の差異点を基に、 学級全体で 気付きを 共有 し、問題を設定する。		・個々の気付きや疑問を 分類・整理 し、 個人 で問題を設定できるよう 助言 する。
②	・児童の生活経験や既習事項など、予想の根拠となりそうな事項を 学級全体で確認 する。		・生活経験や既習事項などを根拠に、 個人 で根拠のある予想を立てるよう 促す 。
③	・ 予想の書き方を提示 し、根拠のある予想を表現することができるようにする。		
④	・「変えるのはひとつだけ」をキーワードに、 学級全体で 検証計画を考える。		・既習の検証計画を 参考 に、 個人 で検証計画を立てるよう 助言 する。
⑤	・複数のデータを集めることで妥当性が高まることを 学級全体で確認 する。		・問題解決に必要な情報を考えながら、観察、実験や情報収集をするよう 促す 。
⑥	・学級全体の結果を整理したデータを 提示 し、考察の見通しを 学級全体で確認 する。		・ 学級全体の結果を基に 、考察をするよう 促す 。
⑦	・ 考察の書き方(文型) を 提示 し、考察を表現することができるようにする。		・ 考察の視点を提示 し、 個人 で考察を表現できている児童を 価値付ける 。
⑧	・問題に正対した結論を 学級全体で 導く。 ・ 振り返りの視点を提示 し、振り返るようにする。		・結論を 個人 で導けるよう 促す 。 ・視点を基に振り返るよう 助言 する。
教える	教師の役割		支える

本時：生かす段階「⑥観察、実験」～「⑧結論」の場面

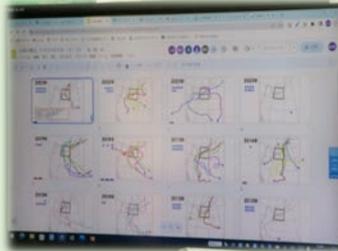
目標（第3時／全5時間） ●学習活動 ・教師の役割

台風の動きや、それに伴う天気の変化について、気象衛星やアメダスなどの気象データを基に、調べる活動を通して、**規則性を見だし、表現**することができる。

- 前時に話し合った今年の台風7号の動きと、それに伴う天気の変化について振り返る。
 - ・ より妥当な結論を導くために複数のデータの必要性を確認する。
- 過去に日本に上陸した台風の動きをペアで調べ、タブレットPC上の白地図に書き込む。
 - ・ 台風の動きの傾向を考えながら調べるよう**助言**する。
 - ・ 書き込みが終わったペア用に予備のデータを**用意**する。
- 各ペアが調べた台風経路を全体で共有し確認する。
 - ・ 調べた情報を共有機能で集約し、**考察時に活用できるようにする**。
- 台風の動きの規則性について考察する。
 - ・ **考察の視点を提示**し、個人で考察できるようにする。
 - ・ 「学び方」を生かして表現している児童を**価値付ける**。
- 結論を個人で導く。
- 振り返りの視点を基に学習を振り返る。

複数の台風情報から規則性を見いだす姿

- 複数の台風の動きを調べ、必要な情報を整理している。



- 学級全体で共有した各年の台風の動きから、規則性を見いだそうとしている。



- 「考察の書き方」を参考にしながら、考察の視点に沿って考察を表現している。



実践事例

生かす

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から予想や考察などを筋道立てて文章で表現することができていた児童が、本単元の学習を通して、自分の考えと異なる友達の考えを受け入れたうえで、自分の考えを見直すようになった。

本単元前は、予想や考察などを文章で表現することが難しかった児童が、ペアで結果を解釈しながら考察を進めたことによって、自分の考えを以前よりも表現できるようになった。

学級全体として、考察の視点を示すことで、結果を基に考察を表現することができる児童が増えた。結論を導くために、他の班の結果など複数の結果を比べて判断しようとする姿が見られた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、児童が学級全体の結果に着目して考察できるようになったこと、課題は、考察を言語化することであった。実践後も他の単元の考察場面でよい表現を価値付けるようにしたことで、考察を書き進められる児童が増えている。今後も、問題解決のために必要な情報を児童と検討したり、考えを言語化するための支援を行ったりしながら、児童が見通しをもって問題解決に取り組めるようにしていく。

小学校 第1学年 生活 「なつが やってきた」

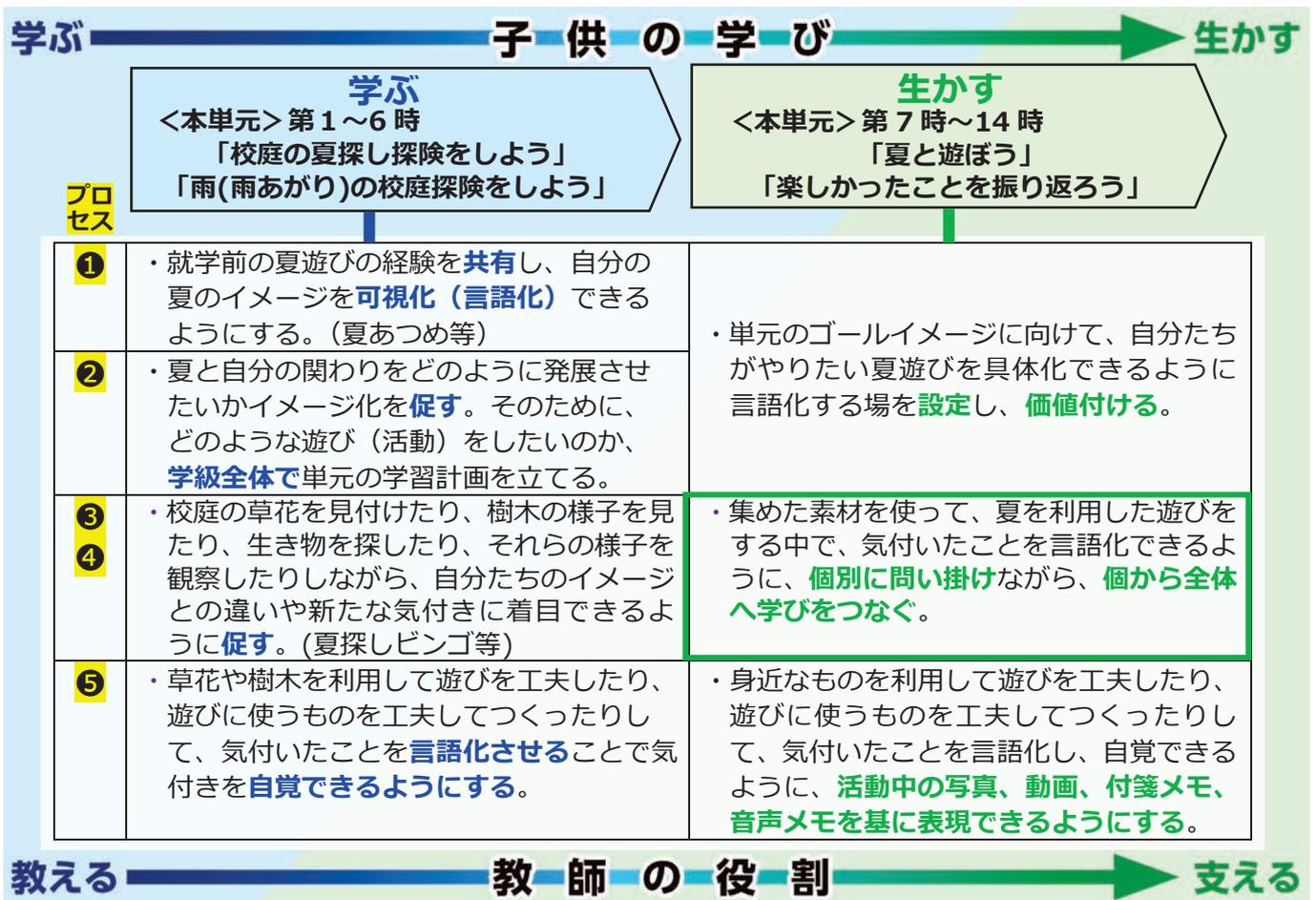
単元の目標

夏の自然を観察したり、身近にある物を作ったりする活動を通して、夏とその他の季節との**違いや特徴を見付けたり**、遊びや遊びに使う物を**工夫してつくったり**して、夏の自然の様子や春から夏の変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	① 見つけよう 【自分の思いや願いをもつ】 ・身近な自然や素材と遊ぶことを通して「しりたい」「やりたい」を見付ける。
	予想・見通し	② 計画しよう ・体験したことを振り返り、より遊びを楽しくしたり、季節と仲良くしたりするための学習計画を立てる。
問題解決	課題の追究	③ やってみよう 【活動や体験をする】 ④ 感じよう・考えよう 【感じる・考える】 ・自分たちで計画した遊びに没頭する。
	結論・振り返り	⑤ 表そう 【表現する・行為する（伝え合う・振り返る）】 ・遊びを振り返り、気付いたことを言語化する。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「③やってみよう」「④感じよう・考えよう」の場面

目標（第8時／全14時間）

●学習活動 ・教師の役割

比べたり、試したりしながら、夏の遊びを工夫して楽しんでいる。

- 前時を振り返り、本時のめあてを決める。
 - ・ めあては、子供たちから出たキーワードを基に確認しながら決める。
- 水、シャボン液などを使って、遊びに使える素材等確かめながら、素材遊びを楽しむ。
 - ・ どの素材が、どんな遊びに適しているのかなどを確かめながら遊べるように声を掛けていく。
 - ・ 友達と関わり合って活動を広げていけるように、活動場所が見渡せるように配置を工夫する。
 - ・ 友達と相談したり、自分でメモをしたりできるミニ机を用意する。
 - ・ 活動中は「①何をしようとしているのか ②何に気付いたのか ③困っていること」などを、個別に聞き取りながら、活動を広げるために同じ考えの友達とつなげたり、ヒントとなる活動をしている友達の様子を見るなどの声掛けをしたりして、個から全体へと学びをつないでいく。
- 本時を振り返り、協力して片付けを行う。
 - ・ 本時のめあてを振り返り、全員がめあてを達成できたのかを確認する。

気付きを共有し言語化する姿

- 材料の特性を考えながら、自分が考えた夏の遊びを楽しんでいる。



- 遊んでいる途中で、気付いたことをメモしたり、友達と気付きを共有したりしている。



- 困ったときは、友達に相談して活動している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から友達と関わり合って学ぶことの楽しさに気付き、活動に取り組んでいた児童が、単元を通して、気付いたことを言語化し、気付きと気付きを結び付けながら学習に取り組むようになった。

思いを大切にしながら遊びを楽しむ一方、気付きの言語化が未熟であった児童が、教師が気付きを価値付けたり記録したりして、振り返りの時に提示することで、気付きを言語化できるようになった。

学級全体として、単元のゴールイメージをもち、自分たちで作った「学び方」のプロセスを1つ1つ進んでいくことで、学ぶことの楽しさを感じながら学習に取り組む児童が多かった。

実践の振り返りとこれからの授業

児童の思いや願いを大切にすることで、自分たちが設定した学びのゴールに向けて見通しをもって学習に取り組むことができた。一方、気付きの言語化が課題であったため、次単元でタブレットPCを活用したことで、児童が具体的に学びを振り返り、言語化できるようになった。今後も児童の思いや願い、学びのゴールイメージを大切にしながら、活動や体験を具体的に振り返られるようにする。

実践事例

生かす

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

小学校 第5学年 音楽 「和音の響きを感じてチャイムをつくろう」

題材の目標

- (1) 和音と旋律との関わりや、和音や旋律のつなげ方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解するとともに、和音の響きを感じて旋律をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、**音楽の聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。**
- (3) 和音と旋律との関わりや和音進行をもとに、旋律をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、音楽に親しむ。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①探してみよう 【生活や社会の中の音や音楽と出会う】 ・耳に残り、口ずさみやすい旋律とはどのような旋律か考える。
	予想・見通し	②聴いてみよう 【知覚する、感受する】 ・旋律におけるつながり方や和音との関わりについて考える。 ③イメージしよう 【思いや意図をもつ】 ・どのように音楽をつくるか思いや意図をもち、旋律の動きを図で表し、イメージをもつ。
問題解決	課題の追究	④表現しよう 【音楽で表現する】 ・考えたことを基にグループで旋律をつくり、音のつながり方や和音の響きを捉える。
	結論・振り返り	⑤振り返ろう 【意味や価値などを自覚する】 ・様々な音楽が構成されて作られていることを知る。 ・学んでいること、学んだことの意味や価値などを自覚する。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ	子供の学び		生かす
プロセス	学ぶ <本題材> 第1～5時 音楽づくり「チャイムをつくろう」	生かす <次題材> 第1時～2時 鑑賞「曲のおもしろいところを見つけて聴こう」	
	① ・身近な音に触れる場を 設定 し、学習の見通しをもてるようにする。	・親しみやすく、耳にしたことのある楽曲を 流し 、音を楽しむという学習の見通しをもてるように 助言 する。	
	② ・既習「茶色の小びん」と「学校のチャイム」を聴き、音楽の縦と横との関係はどのように関わっているかを考えるよう 視点を示す 。	・鑑賞曲「つるぎの舞」を流し、楽器の音色を感じながら聴くように 促す 。 ・旋律の変化や合いの手の楽器など、音楽がどのようにできているかを考えるよう 促す 。	
	③ ・どのように音楽をつくるか思いや意図をもち、まとまりを意識した旋律の動きを 図で表し 、つくる旋律にイメージをもてるようにする。	・楽曲を聴き、演奏のよさを見つけて、感想を記入するよう 助言 する。	
	④ ・音楽の縦と横との関係に 着目し 、まとまりのある音楽を工夫してつくるよう 視点を示す 。	・感想をクラス全体で発表し合い、友達と交流し、楽曲のよさについて深めるよう 助言 する。	
	⑤ ・グループの作品を聴き合い、気付いたことや感じたことなどを伝え合い、再考するよう 示す 。	・「つるぎの舞」の仕組みや曲のよさについて思いや意図をもって聴くよう 促す 。	
教える	教師の役割		支える

本時：学ぶ段階「④表現しよう」の場面

目標（第3時／全5時間）

● 学習活動 ・ 教師の役割

音楽の縦と横との関係について考え、どのような旋律をつくるかについて**思いや意図をもってグループでまとまりのある音楽をつくる**ことができる。

- 前時までの学習について振り返る。
 - ・ 「まとまりのある音楽」をつくるために、旋律の音の動き方（上行・下行、跳躍進行や繰り返し）について**確認**しながら**助言**する。
- 旋律のイメージの図をグループで共有し、音楽共有ソフトを使って旋律をつくる。
 - ・ 前時に作成した旋律の音の動きのイメージ図と作りたいチャイムのイメージを基に4小節（1人1小節を担当）の旋律をつくるよう**視点を明確にする**。
- 中間発表をし、互いの作品を聴き合い、再考する。
 - ・ それぞれのグループの演奏を聴き、気付いたことや感じたことなどを伝え合う場を**設定**し、再考できるように**助言**する。
- 学習の本時を振り返る。
 - ・ 「まとまりのある音楽」をつくることについて、感じ取ったことをアンケート機能に入力し、**全体共有**できるようにする。
 - ・ 「学び方」を自覚させるために、教師による価値付けをする。

思いや意図をもって旋律をつくる姿

- 旋律のイメージ図と作りたいチャイムのイメージを共有し、旋律をつくっている。



- 中間発表をし、友達と交流する中で自身の作品のよりよい表現方法を考えている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から問題解決に向けて意欲的に取り組む姿が見られた児童が、学習を通して、旋律をつくるイメージをもつことの大切さに気付き、イメージ図を確認しながら主体的に活動するようになった。

本題材前は主体的に活動ができなかった児童が、ワークシートを用いて旋律の動きのイメージ図を作ることや、「学び方」を手掛かりにすることで、主体的に取り組むことができるようになった。

学級全体として、「チャイムをつくろう」という学習意欲を高める目標設定があることと、「学び方」が身に付いたことで、児童一人一人が主体性をもって問題解決に取り組むことができた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、意図的・計画的に教師が「学び方」のプロセスのキーワードを繰り返し、価値付けをすることで、児童が「学び方」のプロセスを自覚化し、主体的に問題解決に取り組むことができたことである。課題は、今回実践した表現領域の「学び方」のプロセスが、鑑賞領域においても実践できるか検証することである。今後も、意図的な支援や価値付けをすることで児童の学びを支えていく。

小学校 第4学年 体育 ネット型ゲーム「キャッチバレーボール」

単元の目標

- (1) ネット型ゲーム（キャッチバレーボール）の行い方を知るとともに、易しいゲームをすることができるようにする。
- (2) **規則を工夫したり**、ゲームの型に応じた**簡単な作戦を選んだりする**とともに、**考えたことを友達に伝える**ことができるようにする。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	① やってみよう 【易しい運動から取り組む】 ・はじめの規則を基にゲームを行う。 ・チームで作戦を選んでゲームを行う。
	予想・見通し	② 考えよう 【自己の能力やチームの特徴に応じて課題を選び、課題解決のための活動を決める】 ・規則の工夫を考える。 ・チームの特徴を生かして、より多く得点するための作戦を考える。
問題解決	課題の追究	③ 試してみよう 【決めた運動に取り組む】 ・工夫した規則でゲームを行い、よりよい規則について考える。 ・チームの特徴を生かした作戦を選んでゲームを行い、よりよい作戦について考える。
	結論・振り返り	④ 振り返ろう 【成果を確認して振り返る】 ・工夫した規則を基にゲームを振り返る。 ・チームで選んだ作戦を基にゲームを振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：学ぶ段階「③試してみよう」の場面

目標（第3時／全6時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

全員が楽しめるよりよいルールを友達と考えることができる。

- 前時までの学習を確認する。
 - ・ 本時の学習内容と学習のめあてを**掲示**する。
- 準備運動・チーム練習を行う。
 - ・ **主運動につながる運動を行い**、友達と共に運動をする意欲を高めるようにする。
 - ・ **前時で決めた規則を基に**チームで練習を行うようにする。
- **ゲーム①⇒作戦タイム**
 - ・ 相手チームと選んだ規則でチームの友達と協力してゲームを楽しむことを**押さえる**。
 - ・ ゲームを行って規則についてさらに変更・追加したいことはなかったか**発問し、思考を促す**。
- **ゲーム②⇒片付け・整理運動**
 - ・ ゲーム①で勝てなかったチームを中心に**指導**する。
- 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。
 - ・ 各チームが工夫した規則やチームのために貢献していた児童を**全体で称賛**する。

よりよいルールを友達と考える姿

- 相手チームと話し合い、選んだ規則でゲームをしている。
- ゲームを行った際の規則を踏まえて、より皆が楽しめる規則について考え、伝え合っている。

- 学級全体で各チームが工夫した規則を発表し合っている。

本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から自分で考えた作戦などを友達に伝え、チームに貢献していた児童が、単元を通して主体的に規則や作戦の工夫について考え、友達と協力してよりよいゲームになるよう取り組むようになった。

本単元前は協力してゲームを行うことが苦手だった児童が、「学び方」のプロセスを意識したことで、考える視点が明確になり、友達に思いやりのある言葉を伝えることができるようになった。

学級全体としては、「学び方」のプロセスを共有したことで、他のゲーム領域ではチームで主体的に話し合いながら学習に取り組む児童の学習集団を形成することができた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、教師の指導すべき内容を明確にして、児童に「学び方」のプロセスを共有したことで、児童が見通しをもって取り組むことができた。課題は、本実践のゲーム領域以外でも「学び方」のプロセスを共有することで、児童の自立した学びにつながるか検証する必要がある。他の領域等においても、児童が主体的に学習に取り組むための教師の役割を今後も追究していきたい。

実践事例

学ぶ

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

小学校 第3学年 特別の教科 道徳 「正直な心で行動することの大切さ」

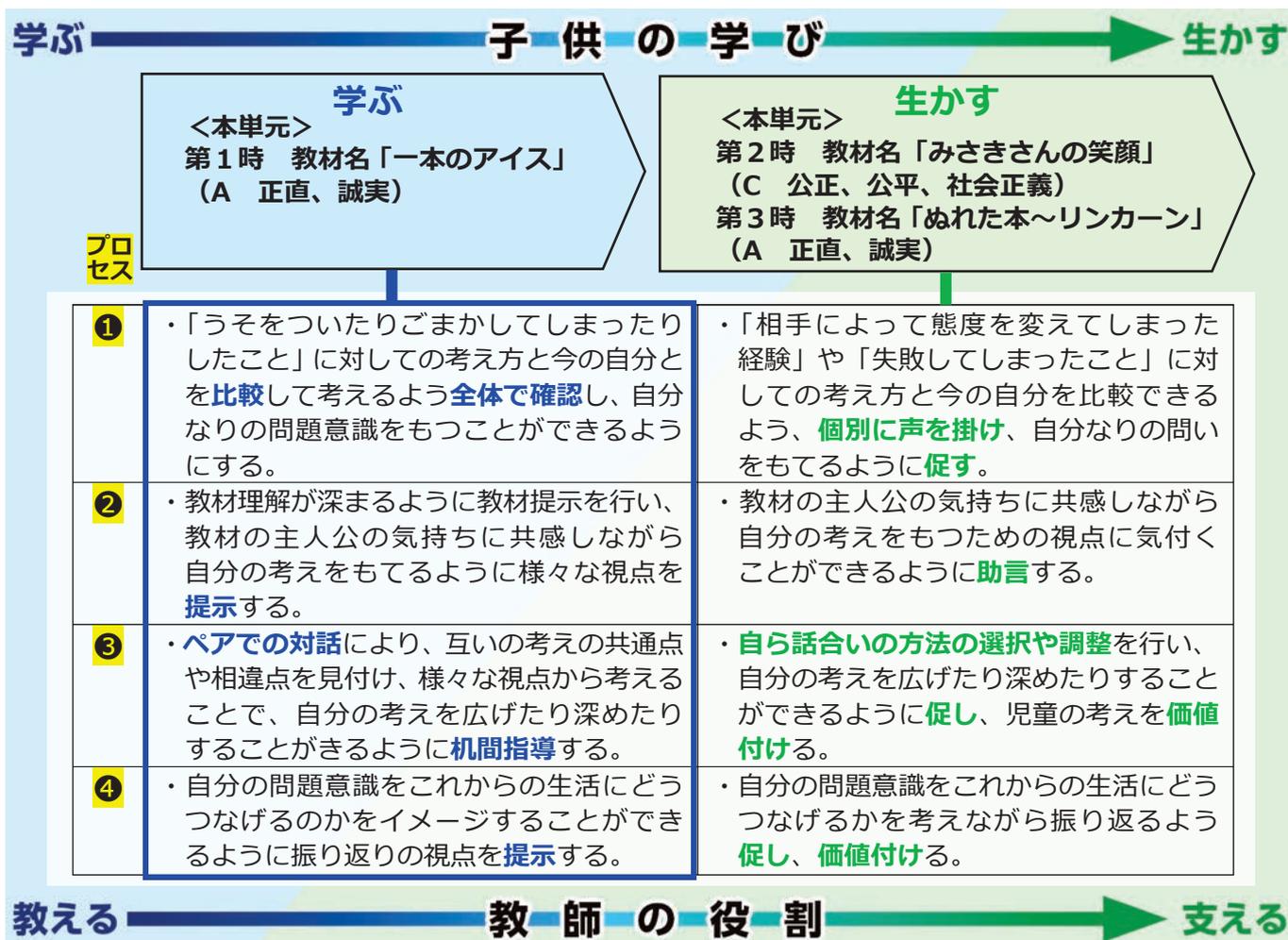
単元の目標

問題意識をもって様々な視点から考え、議論することを通して、相手に対してうそを言ったりごまかしたりすることが、自分自身を偽ることにもつながることに気付き、正直であることの清々しさを自覚し、過ちや気持ちの迷いを素直に反省して、正直な心で行動しようとする実践意欲を高める。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①問いをもつ【問題意識をもつ】 ・内容項目についての問題意識をもつ。
	予想・見通し	②自分の考えをもつ【自分の考えをもつ】 ・①に対する自分の考えをもち、教材文を読む。
問題解決	課題の追究	③様々な視点から考える【多面的・多角的に考える】 ・登場人物の気持ちについて考えたことを様々な視点から考え、議論することを通して、内容項目について考えを広げたり深めたりする。
	結論・振り返り	④考えを深める【自己の生き方についての考えを深める】 ・教材から感じたことや考えたこと、自分の経験とのつながり、これからの生活に生かしたいこと等、自分の学びを振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：学ぶ段階「①問いをもつ」～「④考えを深める」の場面

ねらい（第1時／全3時間）

● 学習活動 ・ 教師の役割

問題意識をもって様々な視点から考え、議論することを通して、素直に反省し、正直な心ですっきりとした明るい気持ちで生活しようとする心情を育てる。

- 事前アンケートの結果を共有し、「うそをついたりごまかしたりしてしまったこと」への自分なりの問題意識をもつ。
 - ・ アンケートの結果を提示し、自分なりの考えをもてるようにする。
- 教材の内容を理解し、登場人物の気持ちに共感しながら、自分の考えをもつ。
 - ・ 教材理解が深まるように情報を精選して教材提示を行い、弟のアイスを食べている時、何も言えないまま自分の部屋に行った時の登場人物の思いを表現できるように様々な視点を提示する。
- 児童同士で互いの考えを共有し、共通点や相違点を見付け、考えを広げたり深めたりする。
 - ・ ペア対話の方法や視点について確認し、児童同士で考えを共有する場を設定し、机間指導する。（相手への反応を可視化できるカードを活用）
- 本時を振り返り、学習後の考えを再構築する。
 - ・ 問題意識をこれからの生活にどうつなげるのかをイメージできるように振り返りの視点を提示する。

問題意識をもって議論する姿

- 事前アンケートの結果から、「うそをついたりごまかしたりしてしまったこと」への自分なりの問題意識をもっている。



- 共通点や相違点等を見付けながら、友達と意欲的に交流をしている。



- 導入時の問題意識が、ペア対話を通してどのように変化したのかを振り返りながら書いている。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から友達との交流に意欲的であった児童が、単元の学習を通して、「正直、誠実」について様々な視点から考え、友達の考えとの共通点や相違点、よさを感じながら学習に取り組むようになった。

本単元前は、振り返りで自分の考えを書くことが苦手だった児童が、「①問いをもつ」場面において、「正直、誠実」へのイメージや問題意識をもったことで、自分の考えを書くことができるようになった。

学級全体として、一人一人が問題意識をもったことで、互いの考えを主体的に交流したり、これからの生活にどのようにつなげるのかを具体的に振り返ったりする児童が以前よりも多くなった。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、問題意識をもつための工夫をし、「学び方」のプロセスを具体化させたことで、見通しをもって学習に取り組む児童が増えたことである。課題は、学びを振り返る場面で、「正直、誠実」について自分との関わりの中で考えることができていた児童への賞賛や価値付けが弱かったことである。今後も児童が「学び方」を生かせるように教師による助言等を大切にしながら指導していく。

実践事例

学ぶ

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

小学校 第6学年 総合的な学習の時間 「私たちでつくる愛宕小～30th Anniversary～」

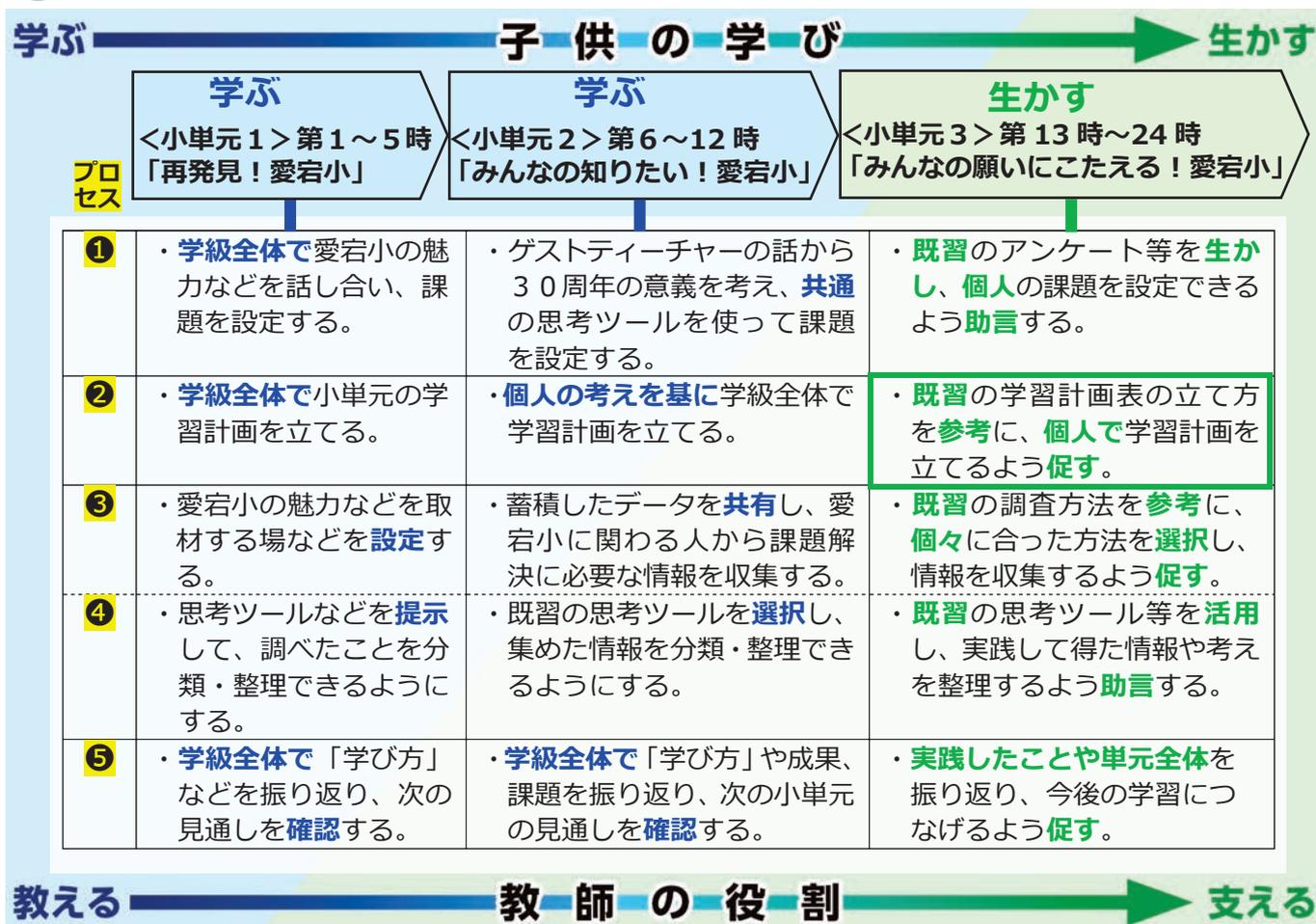
単元の目標

愛宕小30年の歴史を調べたり、自分と友達の思いを比べたりする活動を通して、地域の人々の愛宕小への思いや願いに気付き、**地域に支えられた愛宕小の魅力や地域の人々の思いや願いを実現する活動について考え**、自他の考えや学び方のよさを生かしながら、協働して地域との関わりを意識した取組を実践できるよう

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①見つめる 【課題の設定】 ・生活の身近な場面等から自分の課題を見いだす。
	予想・見通し	②見通す ・課題の解決方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。
問題解決	課題の追究	③調べる 【情報の収集】 ・目的に応じて手段を選択し、情報を収集する。
		④考える 【整理・分析】 ・比較、総合したり関連付けたりして、友達と協働しながら多面的・多角的に捉える。
	結論・振り返り	⑤まとめる 【まとめ・表現】 ・伝える相手や目的を理解し、分かりやすくまとめて表現する。 ・「学び方」や成果を振り返り、生活を見直したり改善のための実践をしたりする。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「**②見通す**」の場面

目標（第14時／全24時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

自分の課題を解決するために、これまでの学習を振り返りながら**課題の解決方法や手順を考え、活動を行う上での条件設定を行い、学習計画を立てる**ことができるようにする。

- 30周年に寄せられた思いや前時までのアイデアを確かめる。
 - ・ 既習の「学び方」や学習計画表の立て方を参考にできるようにする。
- 学校や地域の願いを達成するための活動を選び、実際の活動を決定するための条件を話し合う。
 - ・ 課題の解決方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てることができるように**助言**する。
- 自分の課題解決のための学習計画を立てる。
 - ・ データベースや学習計画フォーマットをタブレットPCで**共有**し、利用できるようにする。
- 互いのアイデアを共有し、学習計画を練る。
 - ・ 似ている課題か違う課題かが分かるように**視覚化（色分け）**する。
 - ・ 「学び方」を生かしている児童を**価値付け**たり、必要に応じて**問い返し**たりする。
- 本時を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。
 - ・ 振り返りの視点に即して考えをまとめるように**促す**。

課題を更新しながら計画を立てる姿

- 課題解決のために必要な情報などを考えたり、話し合ったりしている。



- 既習の「学び方」を振り返ったり生かしたりしている。



- 「学び方」のプロセスに沿って自分に合った方法で学習計画表を作成している。



- 様々な視点から互いに課題や計画が適切かどうかを考えている。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から課題をもって積極的に情報収集等を行う姿が見られた児童が、単元を通して、自分と友達のを組み合わせる場面が増え、自分の課題を更新しながら学習に取り組むようになった。

本単元前は、課題設定が十分にできない姿が見られた児童が、小単元3での友達との協働的な学習を通して、自分のアイデアを提案したり実現可能性について考えたりすることができるようになった。

学級全体として、「見通す」段階を設定したことで、課題設定と情報収集を繰り返し行い、試行錯誤しながら自分の課題を明確にし、解決に向かう姿勢を身に付けることができた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、自分の課題を見だし解決に向かう学びの姿勢が育ったことである。課題は、学習のゴールを一層明確にし、より多くの児童が自己調整、児童同士による調整を経て、協働的に学べるようにすることである。実践後も目的を意識し課題を更新しながら、取り組むことができている。課題を見だし、解決の手だてを見通す学習を継続することで、自立的に学習できるよう指導を充実させていく。

小学校 特別活動（児童会活動） 「実行！ボランティア」

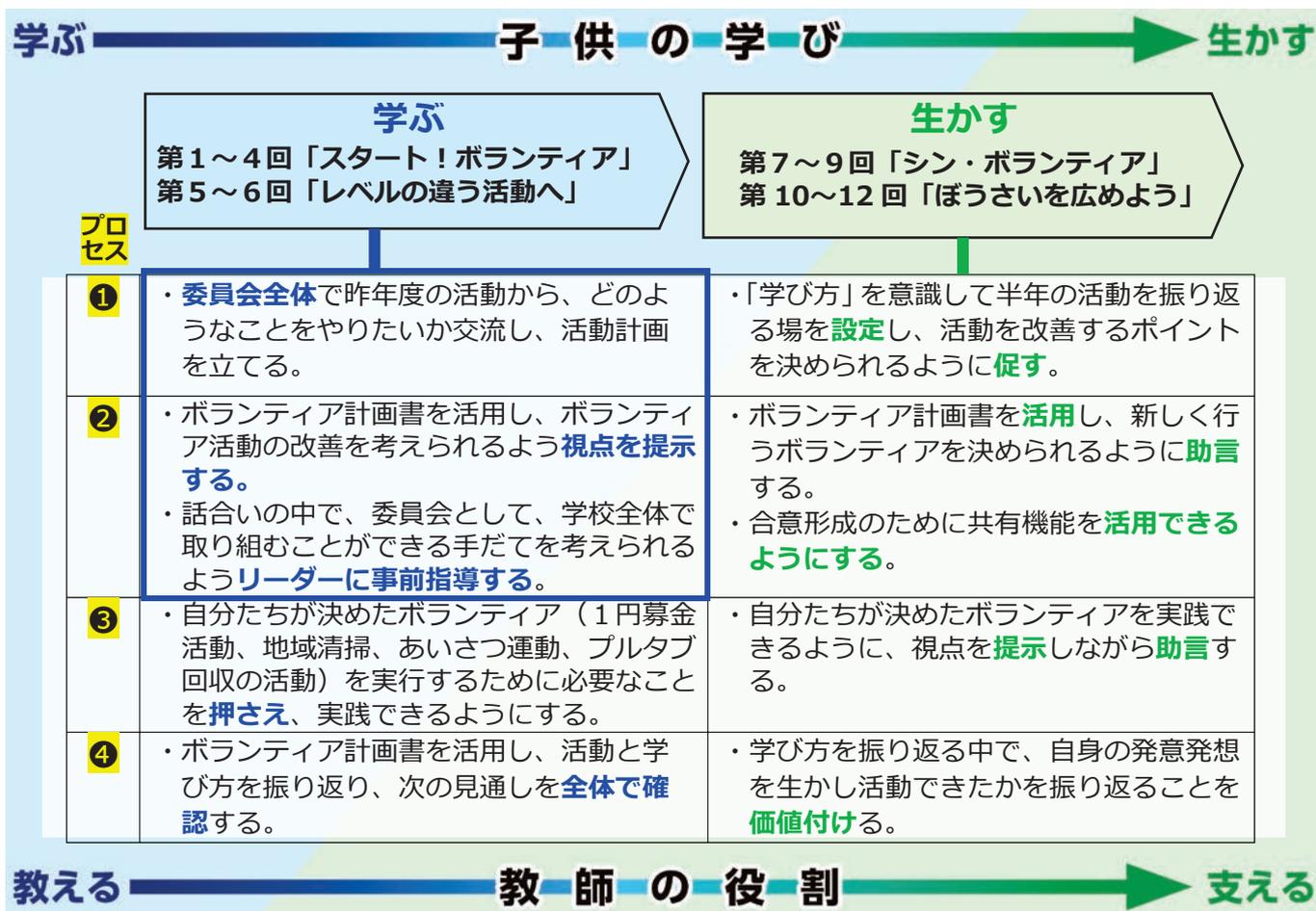
題材の目標

- (1) 異年齢で構成される自治的組織における活動の意義を理解し、その活動のために必要なことを理解したり行動の仕方を身に付けたりするようにする。
- (2) 委員会の活動において、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。
- (3) 自治的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、他者と互いのよさを生かして協働し、よりよい学校生活をつくろうとする態度を養う。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①課題の発見 【問題の発見、議題などの選定】 ・学校生活を豊かにするための課題を見だし、提案する。
	予想・見通し	②話し合い、合意形成・実践への準備 【解決に向けての話し合い・解決方法の決定】 ・ボランティアサービスカードを活用し、活動の見通しを立てる。 ・学校の課題解決に向けて話し合い、合意形成を図る。
問題解決	課題の追究	③決めたことの実践 【決めたことの実践】 ・学校生活の充実を図るための活動を実行する。
	結論・振り返り	④振り返り 【振り返り・次の課題解決へ】 ・よい点や改善点を見付け、新たな課題から次の課題につなげる。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



目標（第5時／全12時間）

●学習活動 ・教師の役割

学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく形成したりして主体的にボランティアを行うことができるようにする。

- ボランティアの改善のための視点を捉える。
 - ・ 委員会活動のねらいを伝え、どのような活動ができるか考える視点を提示する。
- これまでの児童会の活動を振り返り、課題を見だし、全校で主体的にボランティアをする改善案を考える。
 - ・ 共同編集機能を活用し、ボランティアを分類し、実行することを整理できるように共有する。
- 出てきた意見を整理し、「いつ、どこで、だれが、どのように」等、具体的に何をどのように行うか決める。
 - ・ ボランティア計画書を活用し、具体的に取り組むときの課題を捉えやすくするために話し合う視点を明確にする。
- 1学期の活動を振り返りシートを活用して振り返る。
 - ・ 活動だけでなく「学び方」を意識できたかについて、確認する。

児童の発意から合意形成を図る姿

- 課題解決のために必要な情報などを考えたり、話し合ったりしている。



- 活動と学び方を振り返ることで、計画が適切かどうかを考えている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

本題材の学習を通して事前の計画委員会や当日の司会進行を担当することで、自分の考えを皆の前で伝えることができるようになり、他の児童の協力を得ながら活動できるようになった。

本題材前は、主体的に活動に参加することができていなかった児童が、児童発案のボランティアの提案によって、自分の役割を選択し、主体的に活動することができるようになった。

委員会全体として、問題を発見し、自分から考え、実践する態度が育った。児童から新しく取り組みたいボランティア活動を募ったことで、自分の考えを表現したり、話し合いの中で折り合いを付けながら合意形成したりする児童が増えた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、児童が新しくボランティア活動をするとき、「学び方」を意識して、計画したり振り返ったりできるようになったことである。今後も「学び方」のプロセスを児童に意識させることや継続的に振り返ることを大切にしながら児童自身が主体的に活動できるように支援していく。

中学校 第3学年 国語 「松尾芭蕉の旅への思いを意見として語ろう - 『おくのほそ道』 から -」

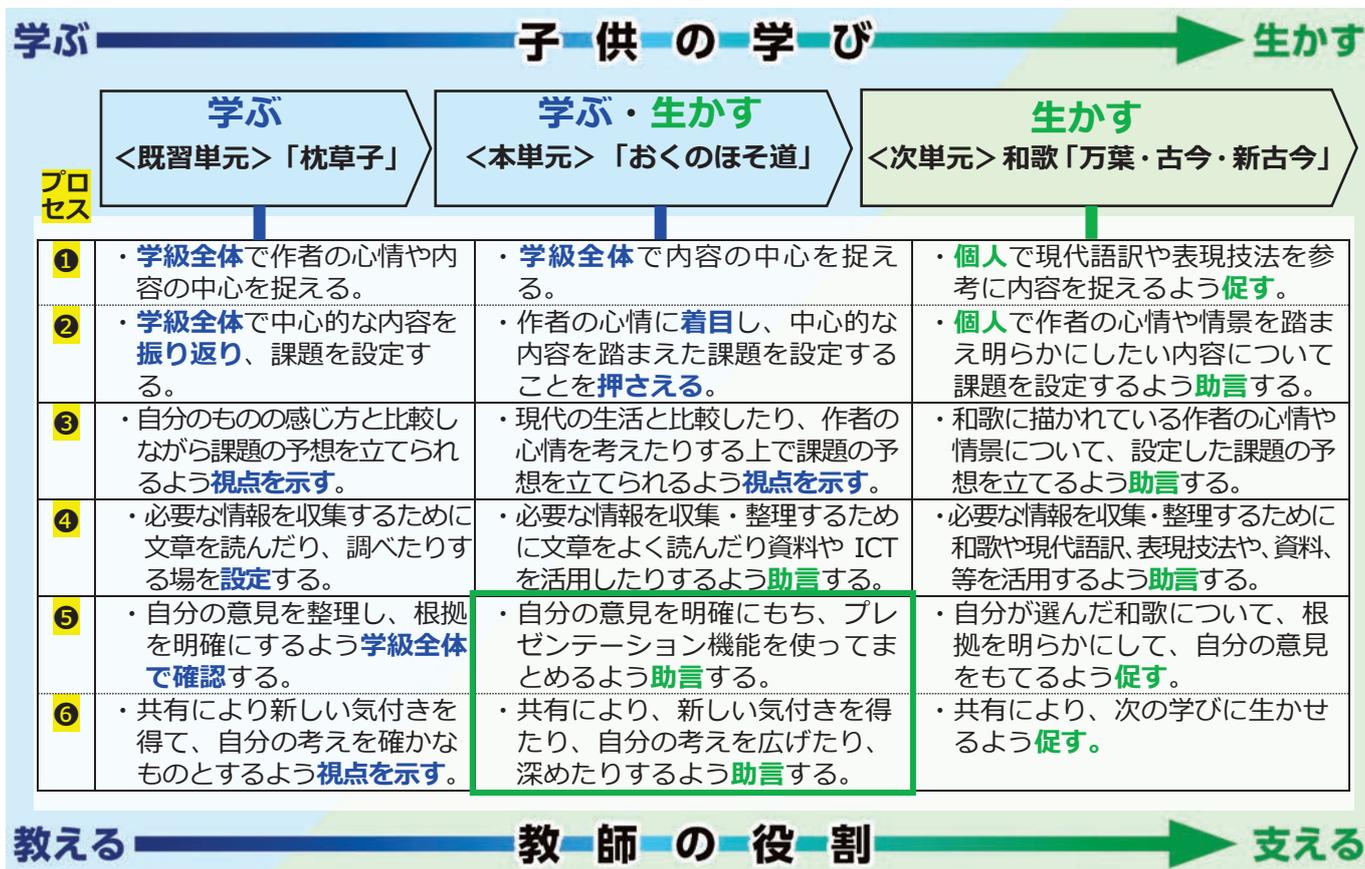
単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との扱い方について理解を深めることができる。
- (2) 歴史的な背景などに注意して古典を読むことを通してその世界に親しみ、長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、作者の旅に対する思いについて、**自分の意見をもつことができる。**
- (4) 言語がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考

「学び方」のプロセスの具体化 - 「読むこと」における「学び方」のプロセス-

問題発見	課題の設定	①内容の把握 【構造と内容の把握】 ・文章の中心を捉える。 ②課題の設定 【構造と内容の把握】 ・作者の心情に対する読みの課題を設定する。
	予想・見通し	③予想・見通し 【構造と内容の把握】 ・作者の思いを想像し、予想を立てる。 ・予想を立証し、作者の思いを読み取ったり想像したりするために必要な調べ方を考える。
問題解決	課題の追究	④精査・解釈 【精査・解釈】 ・必要な情報を収集・整理する。 ・様々な表現の仕方がどのような効果を上げているのか根拠を基に判断し、その意味などについて考える。 ・作者の思いを想像し、自分の知識や経験などと照らし合わせて読む。
	結論・振り返り	⑤考えの形成 【考えの形成】 ・自分の意見を明確にもつ。 ⑥共有 【共有】 ・共有して自分の考えを広げたり、深めたりする。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「⑥共有」の場面

目標（第5時／全5時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

意見を共有することで、新しい学習の視点に気付き、芭蕉の旅への思いや、共有した意見から自分の考えを深めたりよさを取り入れたりすることができる。

- 自分自身の旅への思いを語り合い、ワークシートに記録する。
 - ・ 修学旅行や家族旅行などを例に、旅の心構えや準備、楽しみなことを話し合う場を設定し、自分の考えが明確になるよう促す。
- 松尾芭蕉の旅への思いとその理由を共有する。
 - ・ プレゼンテーション機能を活用した他者参照の場を設定し、様々な考え方の視点に気付くようにする。
- 他者参照により得た新しい視点やよさを取り入れて、「松尾芭蕉の旅への思い」をグループで共有する。
 - ・ タブレットPCの共有機能を活用し、芭蕉に対する自分の思いを全体に共有したり、吟味したりして考えを再構築するよう助言する。
- 松尾芭蕉と自分の旅に対する思いの共通点と相違点を整理して、自らの旅を充実するために考える。
 - ・ 共有によって得た、新たな気付きを整理するために、個別の学習時間を確保する。
- 「学び方」を評価し、価値付けることで次の学習に生かす。
 - ・ 教師による価値付けや、相互評価の場を設定する。

共有により自分の考えを再構築する姿

- 自分の考えを明確にし、様々な考え方に気付いている。



- タブレットPCで全体共有し、自分の考えを吟味、再構築する。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から主体的に問題解決を図り、自分の意見を明確にすることができていた生徒が、単元を通して、特に「⑥共有」の場面で自分の考えを今まで以上に吟味しながら学習に取り組むようになった。

本単元前は、自分の意見をもつことができなかつた生徒が、様々な意見に触れたり、協働的に学び合ったりしたことで、自分の意見をもち、自信をもって友達に伝えることができるようになった。

学級全体として、「学び方」が身に付いたことで、自立して学んだり、「学び方」を工夫したりする姿が見られ、学習のねらいをより高度に達成しようとする意識が醸成された。

実践の振り返りとこれからの授業

生徒に「学び方」を自覚させることで、他の単元や教科等でも生かされ、教科等横断の視点で生徒の学びに寄与することができたことが成果である。実践後も他の単元で、根拠を吟味したり、協働的に学びを深めていたりする生徒の姿が増えている。一方、「学び方」を自覚させるためには、価値付けをしつかりと行うことが重要であることから、振り返り場面での指導の工夫が課題である。

中学校 第3学年 社会 「現代の日本と世界」

単元の目標

- (1) 現代の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現代の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して**多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力**を養う。
- (3) 現代の日本に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①学習課題を設定する 【動機付け】 ・諸資料と既習事項や自らの経験を基に、単元の学習課題を設定する。
	予想・見通し	②予想を立てる 【方向付け】 ・既習事項や自らの経験を基に、予想を立て、学習課題解決の見通しをもつ。 ③視点を確認する ・社会的事象を多角的に捉えるための視点を確認する。
問題解決	課題の追究	④探求する 【情報収集】【考察・構想】 ・課題追究に必要な情報を収集する。 ⑤記録する 【情報収集】【考察・構想】 ・結果を整理して記録し、共有された記録を基に他者の視点も踏まえながら分析する。
	結論・振り返り	⑥まとめる 【まとめ】 ・話し合いながら、自分の考えを発展させて再構築する。 ⑦振り返る 【振り返り】 ・単元を通した「学び方」のプロセスを振り返り、次の学びに生かす。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ		子供の学び		生かす	
プロセス	学ぶ 【前単元】 二度の世界大戦と日本	学ぶ ＜小単元1＞日本の民主化と冷戦 ＜小単元2＞世界の多極化と日本	生かす ＜小単元3＞ 冷戦の終結とこれからの日本		
	①	・学級全体で、設定された学習課題を 押さえる 。	・資料から学習課題を 班で 考え、設定された学習課題を 押さえる 。	・資料や既習事項、生活経験から学習課題を 個人で 考える。	
	② ③	・学級全体で、学習課題追究の視点を 確認 する。	・班で相談しながら 予想を立て 、学習課題追究の視点を 確認 できる環境を整える。	・個人で 予想を立て 、自分自身で、学習課題追究の視点を 確認 できるよう 助言 する。	
	④ ⑤	・ワークシートを活用し、 班で 必要な情報を調べ、情報を記録し、必要に応じて他者参照できる 環境を整える 。	・班や個人で必要な情報を調べ、情報を記録できるよう ワークシートやチャット機能などを活用 して友達と相談したり他者参照したりできる 環境を整える 。	・ チャット機能や付箋アプリを活用 して必要な情報を調べ、必要に応じて友達と相談したり他者参照したりできる 環境を整える 。	
⑥ ⑦	・ 思考ツール を用いて情報を整理し、自分の考えを言葉で表現できる 環境を整える 。 ・「学び方」を振り返ることができるようワークシートを 提示 する。	・ 思考ツール を用いて情報を整理し、自分の考えを言葉で表現できるよう友達と相談したり他者参照したりできる 環境を整える 。 ・「学び方」を踏まえて、振り返ることができるようにする。	・ 記録してきた情報を整理 し、自分の考えを言葉で表現できるよう友達と相談したり他者参照したりできる 環境を整える 。 ・「学び方」を意識しながら、振り返ることができるようにする。		
教える		教師の役割		支える	

本時：生かす段階「④探求する」「⑤記録する」の場面

目標（第13時／全14時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

- 阪神・淡路大震災や東日本大震災などの自然災害等が、**社会に及ぼした影響について考える。**
- パソコンや携帯電話・スマートフォンなどの機器の発達や、インターネットの普及により、人々の生活や文化が変化してきていることに気付く。

- **本時の学習課題を確認する。**
 - ・ 予想を立てられない生徒たちを集め、教師の一斉指導により支援する。
- **予想と思考を整理するための共同編集機能をチャット機能で共有し、自然災害等が社会に及ぼした影響についての情報を整理する。**
 - ・ チャット機能で生徒個々の付箋アプリを確認し、進捗を把握して必要に応じて**個別に助言**する。
- **各自で設定した学習課題について整理した情報を元にディスカッションを繰り返し行い、自分自身のまとめを再構築する。**
 - ・ 本時の目標達成に向けて教師の調整が必要な生徒に**助言**する。
- **本時の取組について自己評価を行い、その後表計算シートに自分の考えについて言語化し、小単元の学習課題に関わる情報を記録する。**
 - ・ 自己評価の基準を**提示**する。

多面的・多角的に考察し、議論する姿



- 共同編集機能を使って課題を整理し、チャット機能を使って情報を共有したり、他者参照を行ったりすることで、各自のペースで学習を進めている。



- ディスカッションを繰り返し、友達の視点や学びを受けて考えを深め、「単元追求シート」に本時の学習課題に関わる情報をまとめている。必要に応じて友達のまとめを参考にしている。

本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から学習課題を意欲的に追究する姿勢が見られていた生徒が、本単元を通して友達の考えを参考にしながら自分の考えを再構築して課題を追究する姿が見られるようになった。

本単元前は自分の考えを構築し表現することに苦手意識があった生徒が、友達との情報交換や他者参照が、自分の考えをまとめる手掛かりとなり、自分の考えをまとめることができるようになった。

学級全体として、問題解決場面で発揮する力は十分に育成され、身に付いてきているが、学習課題を設定する力の育成に課題がある。

実践の振り返りとこれからの授業

問題発見・解決能力を育成する授業展開を意識したことで、個に応じた指導を充実させることができた。課題は生徒たちの学びへの教師の支援の在り方である。他の単元で全体指導を減らし、個別支援を充実していくことを意識したことで、生徒が学習に主体的に取り組む姿が見られるようになった。今後も、生徒が自立的に学ぶための教師の支援の在り方を考えながら、単元づくりを行っていく。

中学校 第1学年 数学 「正負の数」

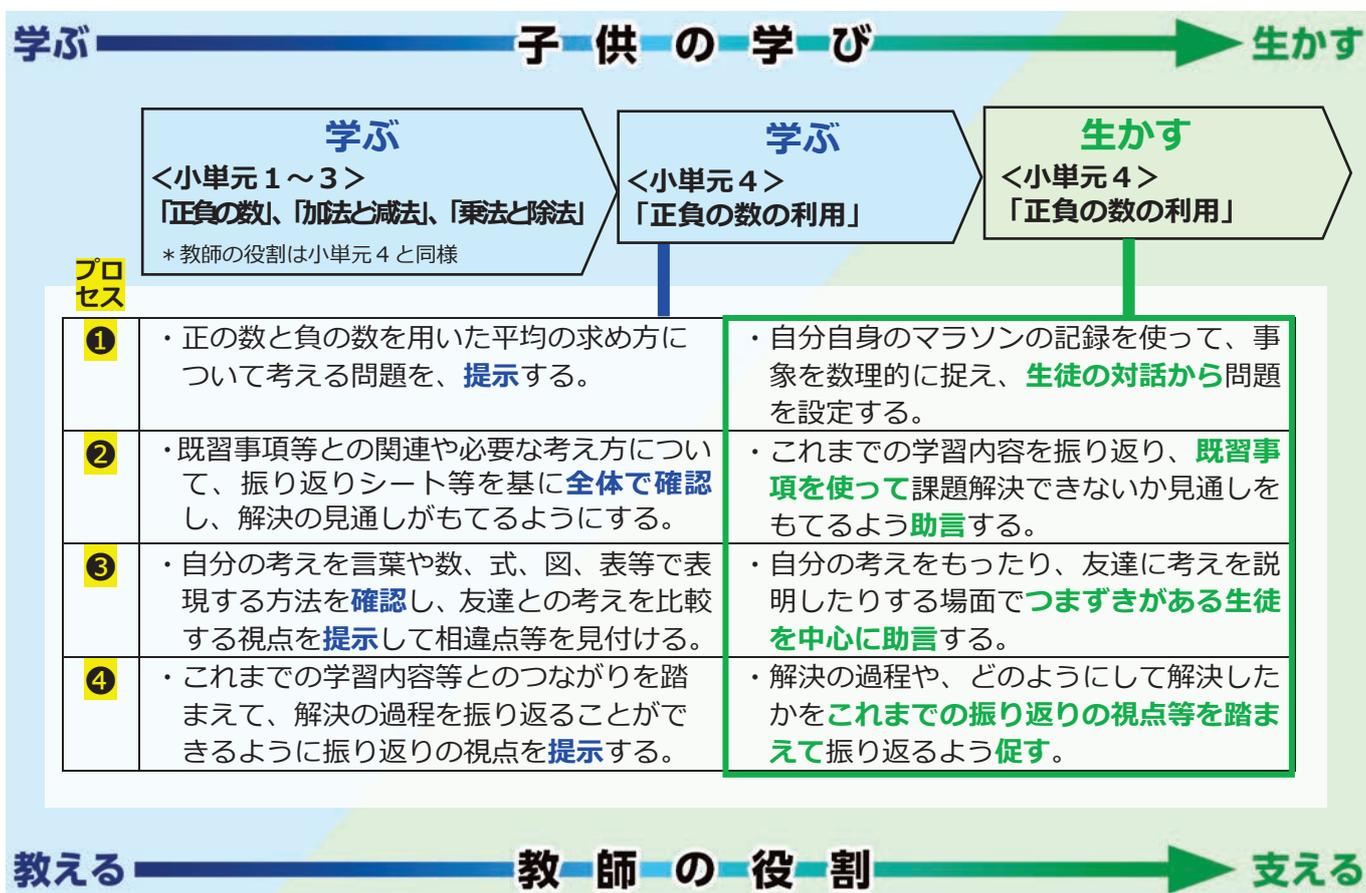
単元目標

- (1) 正の数と負の数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- (2) **数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察**することができる。
- (3) 正の数と負の数について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①何が知りたい? 【問題の設定】 ・事象を数理的な視点で捉え、問いを設定する。
	予想・見通し	②問題を解決するためには? 【解決の計画】 ・問題を解決するために必要な考え方は何かを考え、問題解決の見通しをもつ。
問題解決	課題の追究	③解決してみよう 【解決の実行】 ・具体的な式の操作や実験、演習などを通して考察したり、自分の考えと友達のことを共有し、比較・検討したりする。
	結論・振り返り	④分かったことは? 【解決過程や結果の振り返り】 ・解決した過程を振り返り、これまでの既習事項とのつながりを踏まえた視点で解決の過程を振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「①何が知りたい？」～「④分かったことは？」の場面

目標（第 22 時／全 23 時間）

● 学習活動 ・ 教師の役割

身の回りの問題を、**正の数と負の数を利用して解決する**ことができる。

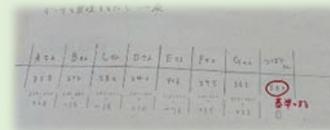
- 自分自身のマラソンの記録とこれまでの歴代ベスト 10 のデータを基に、問題を設定する
 - ・ **既習事項を振り返り**、本時の問題解決にどのような考え方が使えるか考えるよう**助言**する。
- 自分の考えを、言葉や数、式、図、表、グラフを使って数学的に考察・表現する。
 - ・ **既習事項を用いて**データを整理して考察・表現できるよう**助言**する。
- 自分の考え方を友達と共有する。
 - ・ 自分自身で説明することが難しい生徒に対して、表現方法を**助言**する。
- 本時を振り返る。
 - ・ これまでの振り返りの視点を**踏まえ**て、考えをまとめるよう**促す**。

正負の数の考えを用いて表現する姿

- 問題を把握し、これまでに学習した内容が使えないか、振り返りシート等を確認して考えている。



- 問題を解決するために、表や式、グラフを活用して数学的に考察・表現している。



- 友達と考え方を共有する中で、自分の考え方と比較し、よりよい考え方を検討するなどして、考えをまとめている。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から課題に対して意欲的に取り組んでいた生徒が、本単元で「学び方」のプロセスを意識したことで、問題解決に必要な考え方を意識して、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。

本単元前は見通しをもって学習に取り組むことが難しい様子が見られた生徒が、本単元を通して「学び方」のプロセスを意識することで、これまでと比較して粘り強く取り組む姿が見られた。

学級全体として、「学び方」のプロセスを生徒と共有したことで、見通しをもって学習活動に取り組む姿が見られ、友達と考え方を共有することの有効性を感じている様子が見られた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、生徒が「学び方」のプロセスを意識することで、自分の考えをもてる生徒が増加したことである。課題は、より生徒が解決したいと思える場面を設定することや個々の生徒が必要とする支援を適切に行うことである。今後も、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるように、生徒一人一人の学習活動の様子を踏まえた支援を行っていく。

実践事例

生かす

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

中学校 第1学年 理科「音による現象」

単元の目標

- (1) 音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- (2) **音について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見いだして表現する。**
- (3) 音に関する事物・現象にすすんで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①気付き 【自然事象に対する気付き】 ・自然の様々な事物現象を比較して、「不思議」に気付く。 ②課題 【課題の設定】 ・「分かること」「まだ分からないこと」を整理して課題を設定する。
	予想・見通し	③仮説 【仮説の設定】 ・設定した課題に対して根拠のある仮説を立てる。 ④計画 【検証計画の立案】 ・仮説を確かめるための実験計画を立案する。
問題解決	課題の追究	⑤観察、実験 【観察、実験の実施】 ・結果を予測しながら実験を実施する。 ⑥結果 【結果の処理】 ・実験の結果を分かりやすく整理し、まとめる。
	結論・振り返り	⑦考察 【考察、推論】 ・結果から言えることを推論し、根拠を示しながら考察する。 ⑧表現 【表現、伝達】 ・自分や班の探究をまとめ、表現する。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割

学ぶ	子供の学び		生かす
	学ぶ		生かす
プロセス	<前単元> 第1～8時「植物の特徴と分類」		<本単元> 第1時～6時「音による現象」
①	・学級全体で植物のつくりを比較し、共通点や相違点に着目することで「不思議」が見付かることを押さえる。		・共通点や相違点に着目し、疑問点等を挙げている生徒を価値付ける。友達と共有したり他者参照したりして視野を広げるようにする。
②	・見付けた「不思議」から検証可能な課題を設定する手順や考え方を理解できるように、学級全体で課題をつくる。		・見付けた疑問点等から探究課題を設定したり、必要に応じて友達と相談したり他者参照したりできる環境を整える。
③	・学級全体で根拠のある仮説の立て方について確認し、仮説を立てるようにする。		・根拠のある仮説になっているか確認するよう助言する。
④	・学級全体で観察・実験の手順を確認し、班で計画を立案できるようにする。		・条件を制御した実験の方法を考え、個人で実験計画を立案できるように助言する。
⑤	・学級全体で同一の観察・実験を行う。		・各自で考えた実験を行う。
⑥	・ワークシートを用いて学級全体で図や表などで結果をまとめるよさを確認する。		・図や表、写真や動画など、結果の記録方法を選択し、分かりやすくまとめるよう促す。
⑦	・穴埋めや問い掛け式のワークシートを活用して、考察の書き方を提示する。		・課題から考察までが一貫した流れになるように意識して考察するよう促す。
⑧	・表現の仕方について発表原稿のフォーマットを提示する。		・プレゼンテーションやポスターなど、表現方法を選択して発表できるようにする。
教える	教師の役割		支える

本時：生かす段階「②課題」「③仮説」の場面

目標（第2時／全6時間） ●学習活動 ・教師の役割

見いだした問題を基に、興味・関心に応じた課題や仮説を設定することができる。

- 前時に見いだした音に関する疑問点等を確認する。
 - ・ 比較することで対象の共通点や相違点が明らかになることを改めて確認する。
- 見いだした問題を整理して、自分の興味・関心に応じた音に関する探究課題を設定する。
 - ・ まだ分からないことだけでなく、分かりそうなことに対しても疑ってみることで疑問点等が見付かることを**助言**する。
 - ・ 動画に登場した道具や様々な音の出る道具を**用意**し、自由に音を出したり、観察したりしながら、仮説の設定につなげられるようにする。
- 音の大小や高低、振動に着目し、課題に対する仮説を設定する。
 - ・ 生活経験や既習事項を基に根拠のある仮説を設定するよう**助言**する。
- 全体で課題を共有し、似ている課題同士で実験の計画を立てる。
 - ・ 全体で互いの課題や仮説を確認し、似ている課題同士で話し合う場を**設定**する。

気付きから課題や仮説を設定する姿

- 前時に視聴した音に関する動画をタブレットPCで改めて視聴し、確かめている。



- 友達の課題や仮説を共有機能で参照し、自分の課題づくりに生かしている。

- 道具を使って音を出し、振動の様子を確認したり、タブレットPCで撮影して比較したりしている。



- 相談したり話し合ったりしながら、疑問点から探究したい課題を設定している。

本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から積極的に事象を観察し、疑問から課題を設定していた生徒は、単元を通して、自ら「学び方」のプロセスを行き来しながら計画的に探究的な学習に取り組むようになった。

本単元前は、指示通りに取り組む様子が見られた生徒が、本単元では各自の関心に応じて探究を行う中で、「学び方」のよさに気付き、自ら学びを進める姿が見られるようになった。

学級全体として、意欲的に自然事象と関わる姿勢が多く見られるようになり、協働的に学ぶことによって探究的な学習のよさを実感する姿が見られるようになった。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、多くの生徒が意欲的に探究的な学習に取り組んだことである。課題は、生徒が自ら課題や仮説を設定できるように発問や指示を精選することであった。今後も、生徒が「学び方」を理解し、そのよさを自覚しながら探究的な学習活動に取り組めるようにしていく。そのために、意図を明確にした発問を考え、協働的に学び合える場を設定する。

中学校 第2学年 音楽 「カノンコードに合った歌いやすく、覚えやすい旋律をつくろう」

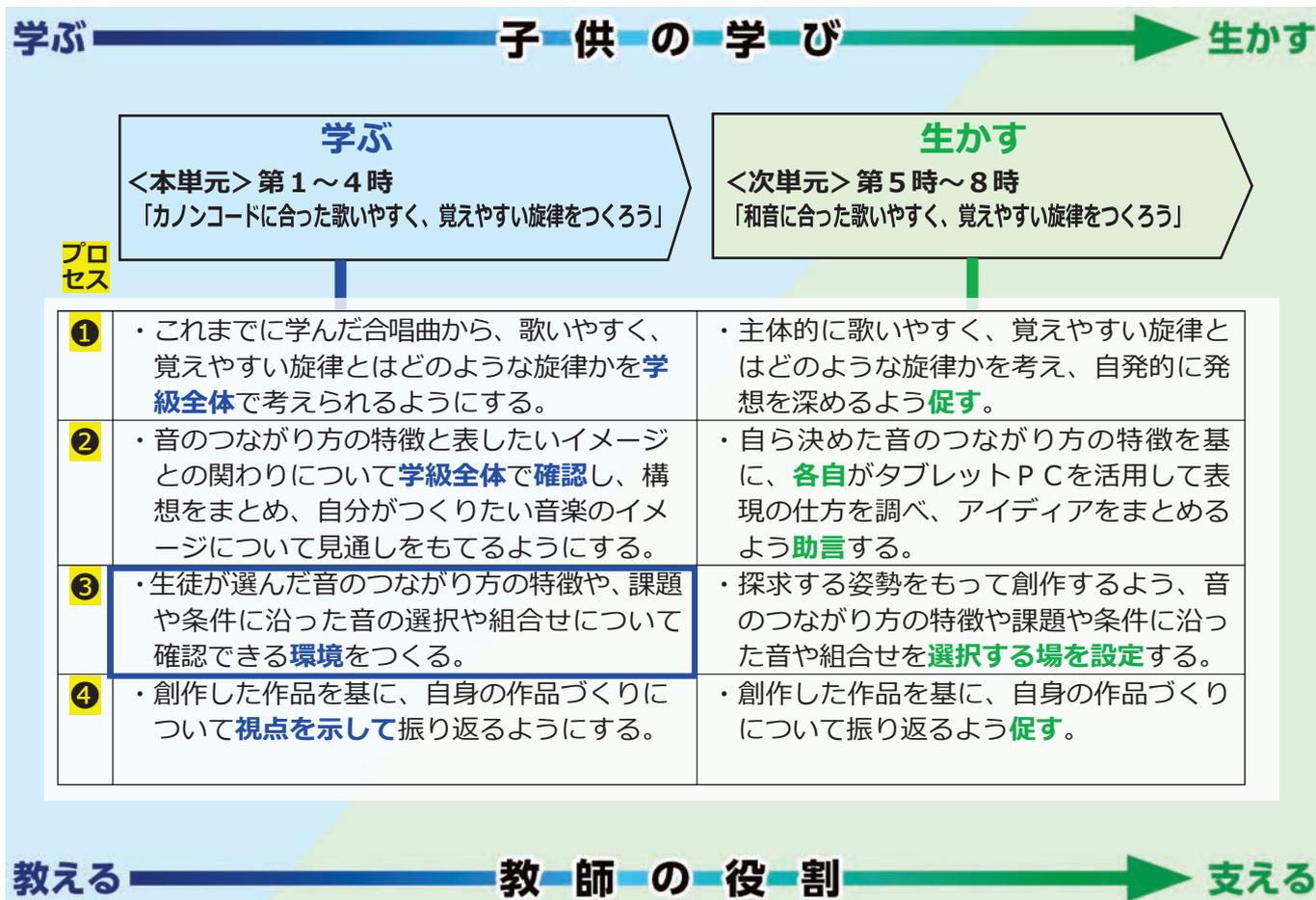
題材の目標

- (1) 音のつながり方の特徴と表したいイメージとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。
- (2) リズム、旋律、テクスチュア（旋律と和声の重なり方）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、**知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ**とともに、**まとまりのある創作表現を創意工夫する**。
- (3) 音のつながり方の特徴を生かした旋律づくりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に創作の学習活動に取り組む。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①音楽と出会おう 【生活や社会の中の音や音楽と出会う】 ・歌いやすく、覚えやすい旋律とはどのような旋律かを考える。
	予想・見通し	②見通しをもとう 【知覚する、感受する】【思いや意図をもつ】 ・音のつながり方の特徴について理解し、創作に必要な技能を身に付ける。 ・イメージを言語化し、どのような音楽をつくるかについて、見通しをもつ。
問題解決	課題の追究	③創作しよう 【音楽で表現する】 ・②で得たものを基にイメージを具体化し、表現する。
	結論・振り返り	④振り返ろう 【意味や価値などを自覚する】 ・イメージを具体化していく過程でどのような技能を使い創作したかを振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：学ぶ段階「③創作しよう」の場面

目標（第3時／全8時間）

●学習活動 ・教師の役割

カノンコードの響きに合った、歌いやすく、覚えやすい旋律を創作で表すことができる。

- 創作について、これまでに学んできたことを振り返る。
 - ・ 自分の表したい思いや意図に応じた、既習の学びを生かそうとする態度をつくる。
- 自分の思いや意図に合う音の選択や組み合わせを工夫して表す。
 - ・ **必要に応じて**、創作の途中にタブレットPCを用いて音源を**共有**し、互いの作品の批評をし合いながら創作を行えるようにする。
- 創作した作品について、音源を聴いたり歌い試したりしながら、より相応しい表現を推敲する。
 - ・ 創作中はイヤホンやオーディオスプリッターを使用し、自分やグループの作品を、聴きたい人だけが聴こえる**環境**をつくり、落ち着いた創作**雰囲気**をつくる。
- 本時を振り返り、タブレットPCに作品を保存し、振り返りを行う。
 - ・ 次時に取り組む学習を全体で**確認**する。

思いをもって工夫して旋律をつくる姿

- 自身のイメージを言語化したものに対して、学んだ技能を積極的に活用している。



- 友達と交流する中で自身の作品のよりよい表現方法を考えようとしている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から創作する技能を身に付けていた生徒が、単元の学習を通して、さらに自発的に発想を深めたり、自ら探究する姿勢をもって学習に取り組んだりするようになった。

本題材前は、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせを理解することができていなかった生徒が、見通しをもって取り組むことで、自ら決めた音のつながり方について推敲することができるようになった。

学級全体として、基礎的な創作の技能を身に付けることが困難であったが、課題意識や目的意識を明確にもつように促したことで、自己調整によって技能を身に付けることができる生徒が増えた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、創作の技能が定着する生徒が増えたことである。実践後も他の単元で「学び方」のプロセスを繰り返し意識したことで子供が自発的に「学び方」を学ぶ姿勢をもつようになった。課題は、限られた創作時間の中で「学び方」のプロセスをいかに生徒が理解していくかである。今後も「学び方」のプロセスについて、特にキーワードを生徒自身が理解できるように指導していく。

実践事例

学ぶ

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

中学校 第1学年 美術 「楽曲のよさを感じて」

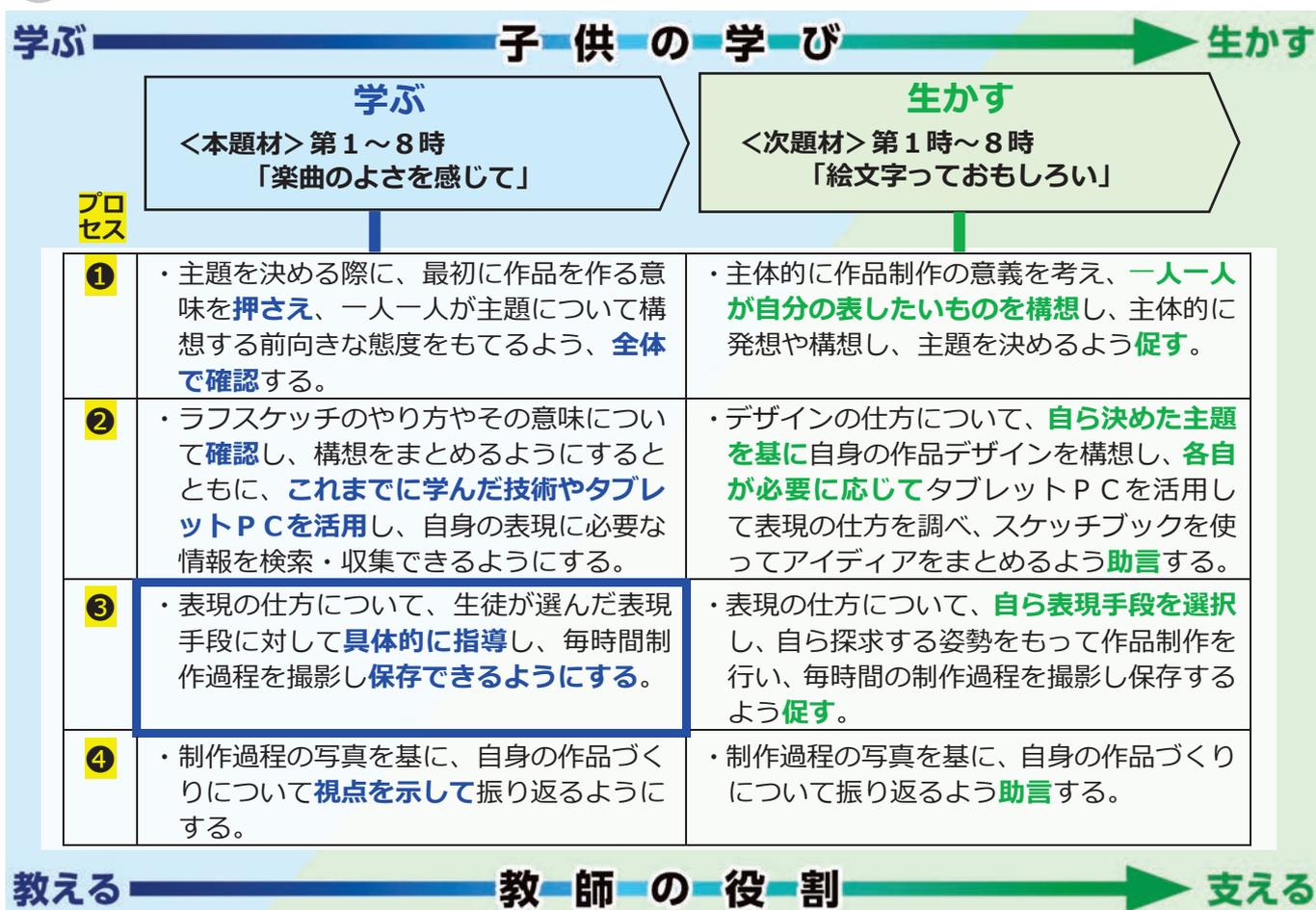
題材の目標

- (1) 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解する。
- (2) 対象や事象を見つめ**感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。**
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、作品のよさや美しさなどを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①主題を決めよう 【主題を生み出す】 ・イメージを視覚化する意味を考える。
	予想・見通し	②デザインを考えよう 【デザインの構想を練る】 ・イメージを言語化し、ラフスケッチをして構想をまとめる。 ・表現する上で必要な技術等を身に付ける。
問題解決	課題の追究	③イメージ画を描こう 【意図に応じて表す】【デザインを再構成する】 ・イメージ画を作成し、②で得たものを基にイメージを具体化し、表現する。
	結論・振り返り	④作品を振り返ろう 【振り返り、まとめ】 ・イメージを具現化していく過程でどのような手段を使い表現したかを振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：学ぶ段階「③イメージ画を描こう」の場面

目標（第6時／全8時間）

● 学習活動 ・ 教師の役割

ポスターカラーの特徴を生かし、自分の表現意図に応じて工夫して表すことができる。

- 着彩について、これまでに学んできたことを振り返る。
 - ・ 自分の表したい意図に応じて、既習の学びを生かすことを**確認**する。
- 発想や構想を基に、自分の意図に合う表現方法を工夫して表す。
 - ・ **必要に応じて**、制作の途中に鑑賞を行い、友達の作品を見たり、これまでの自分の制作過程を振り返ったりする場を**設定**する。
- 自分の意図に応じて、ポスターカラーの濃度や筆の使い方を工夫して、様々な表し方に挑戦する。
 - ・ 作業中は題材の楽曲を流し、聴覚から感覚的に訴え、制作意欲を膨らませるとともに、落ち着いた**作業雰囲気**をつくる。
- 本時を振り返り、片付けを行う。
 - ・ 次時の自分の作品制作の見通しを**確認**する。

意図に応じてイメージを具体化する姿

- 自身の主題に対して、学んだ表現方法を積極的に活用している。



- 製作途中の作品を写真に撮り、これまでの制作過程を振り返っている。



- 友達と交流する中で自身の作品のよりよい表現方法を考えている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

「学び方」のプロセスを踏まえた作品づくりに取り組むことで、題材を自分のものとして受け止め自分の思いや意図をもって主題を決め、構想した作品づくりのために必要な技法を主体的に試して、よりよい作品にしようとする姿が見られるようになった。

本題材前は作業が思うように進まない場面が多く見られた生徒が、教師や友達との対話の中で想像したことから主題を決め、表現の技法を理解することで、自ら構想する姿が見られるようになった。

学級全体として、「学び方」のプロセスを理解させることで、一人一人が自分のゴールイメージをもって主体的に表現活動に取り組む姿が見られるようになった。

実践の振り返りとこれからの授業

生徒に「学び方」のプロセスを身に付けさせることで、次単元では自分の作品の完成に向けた計画を自ら考え、行動に移す姿が見られた。今後も、生徒が主体的に思いや意図をもって作品づくりができるように、授業中の生徒一人一人の様子から実態を把握し、適切に教師からの指導や支援が行われる授業をデザインする。

実践事例

学ぶ

課題の設定

予想・見通し

課題の追究

結論・振り返り

中学校 第3学年 技術・家庭（技術分野）「SNSプログラムを作ろう」

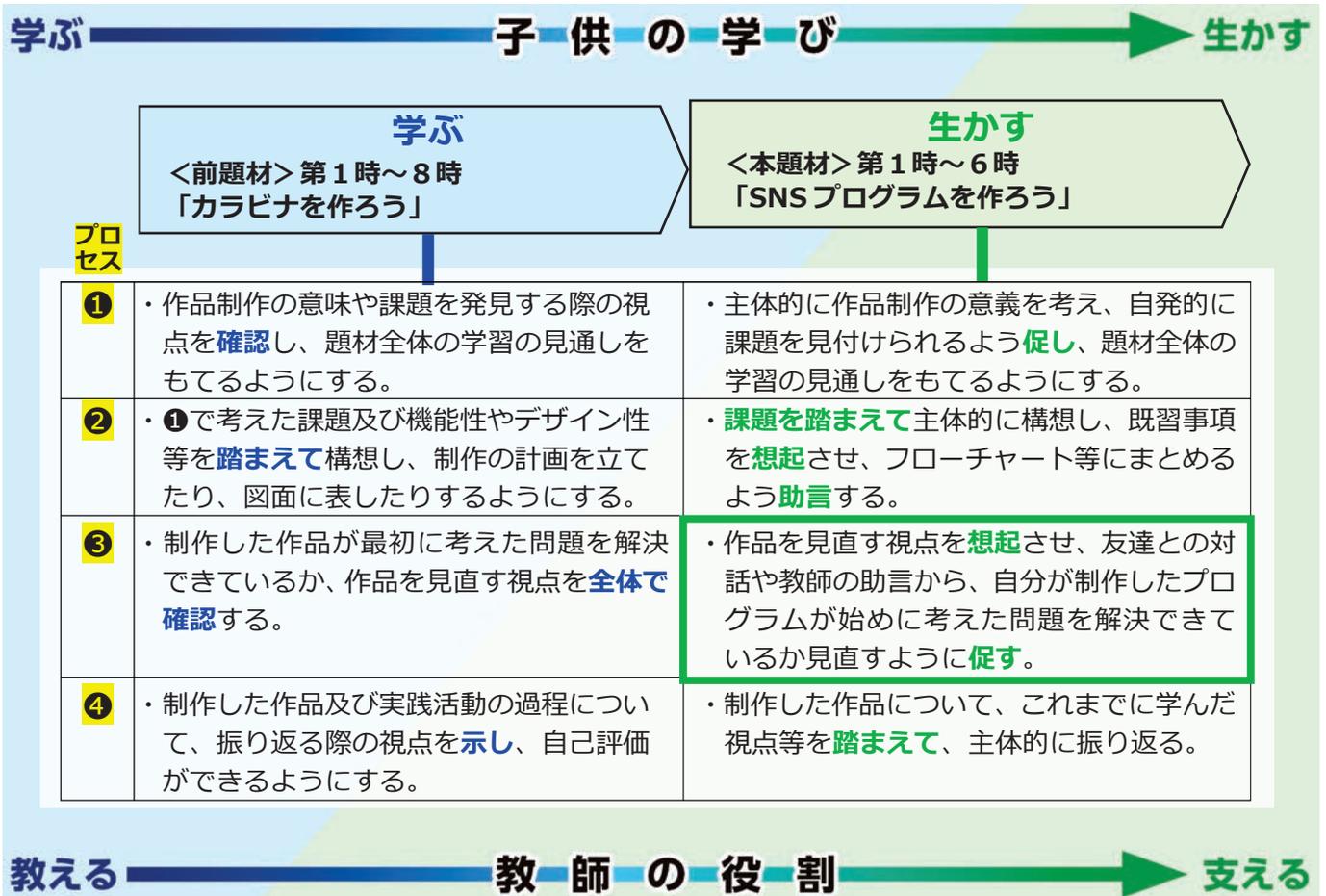
題材の目標

情報の技術の見方・考え方を働かせ、持続可能な情報通信機器を開発する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている情報の技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会との関わりについて理解を深めるとともに、**生活や社会の中から情報の技術に関わる問題を見出して課題を設定し解決する力**、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①問題発見 【生活の課題発見】 ・生活や社会の中から、技術に関わる問題を見付ける。
	予想・見通し	②設計・計画 【解決方法の検討と計画】 ・条件を踏まえて構想し、設計を具体化する。 ・計画を整理し、文書や図表、図面などを作成してまとめる。
問題解決	課題の追究	③制作・修正 【課題解決に向けた実践活動】 ・制作品が問題を解決できているかを見直し、必要があれば修正する。
	結論・振り返り	④評価 【実践活動の評価・改善】 ・結果及び実践活動の過程を振り返り、自分の作品が最初に考えた課題を解決できているかを評価する。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「③制作・修正」の場面

目標（第5時／全6時間） ● 学習活動 ・ 教師の役割

前時までに制作したプログラムを、課題解決に向けてデバッグ等を行うことができる。
※デバッグ…プログラム上の間違いを直すこと。

- **学習課題をつかむ。**
 - ・ これまでの学習を振り返り、「学び方」のプロセスの現在地を確認する。
- **課題解決に向けて制作したり、修正したりする。**
 - ・ 制作したプログラムが最初に考えた課題に対応しているか**個別に確認**し、フローチャートを見直し、必要に応じて修正するよう**助言**する。
- **制作する中で気が付いたことなどを整理する。**
 - ・ 友達のプログラムを見たり、実行したりして、気が付いた考え等をワークシートに記入するよう**促す**。
- **デバッグ等を行う。**
 - ・ 友達からのアドバイスや教師からの助言を**踏まえて**、自身のプログラムの構成を見直し、修正を加えるように**促す**。
 - ・ 友達のプログラムと比較したり、動作確認をする中でバグを発見し修正したりするよう**個別に助言**する。
- **実践活動を振り返る。**
 - ・ 本時の目標に対しての到達度を確認するよう**促す**。

プログラムを見直し修正する姿

- 最初に決めた課題を確認し、課題解決のために必要な情報等を考えている。
- 様々な視点から互いに課題解決に向けて適切なプログラムとなっているか確認している。
- 友達からのアドバイスや教師の助言を踏まえてデバッグを行っている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から課題に対して意欲的に学習を進めていた生徒が、「学び方」のプロセスを基に学習を進めることで、毎時間ごとに目標をもちよりよい作品を作ろうとする姿が見られるようになった。

本題材前は毎時間ごとに自分がやるべき作業に迷い、作業時間が確保できなかった生徒が、「学び方」のプロセスを意識することで自分のペースで作業を進める姿が見られるようになった。

学級全体として、本題材で活用した「学び方」のプロセスを踏まえたワークシートを基に、どのようにして問題を解決したか、解決までの過程を振り返り、評価することができる生徒の姿が多く見られた。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、生徒が「学び方」のプロセスを理解し、自立的に学習を進めることで活動時間を確保することができたことである。課題は、自分で解決の方向性を決めることが苦手な生徒に対する適切な助言等について、本研究の実践を踏まえて改善していく必要がある。これからも、常に生徒の実態を踏まえ適切な教師の役割を考えながら授業を実践していく。

中学校 第3学年 外国語 「道順を教えてくださいませんか」

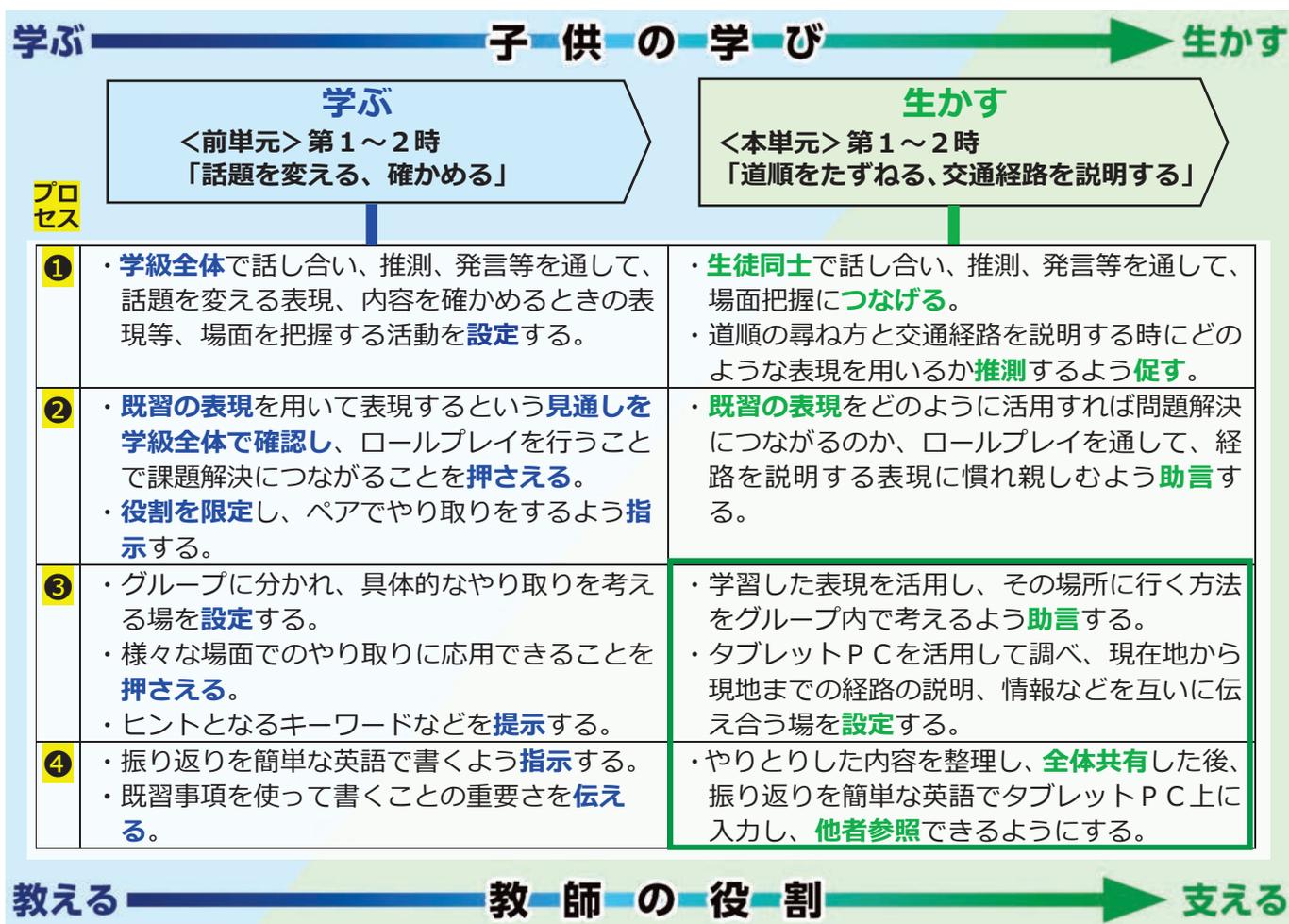
単元の目標

- (1) 「道順をたずねる」「交通経路を説明する」表現の意味や働きを理解し、それを含む英文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。
- (2) 道案内の場面で、道順や交通経路を尋ねるために、目的地について、事実などを整理し、**簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。**
- (3) 道案内の場面で、道順や交通経路を説明するために、目的地までの道順や交通経路について、事実などを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①Guessing/Understanding 【目的の設定・理解】 ・既習事項から推測し、音声を聞き取ることにより、その表現を理解する。
	予想・見通し	②Outlooking 【目的に応じた見通し】 ・設定された場面や状況を考えながら、ペアでロールプレイをする。
問題解決	課題の追究	③Communication 【具体的なコミュニケーションの実施】 ・グループで解決の表現を考える。 ・調べたことを提示しながら互いに伝え合う。
	結論・振り返り	④Reporting 【まとめ・振り返り】 ・会話でやり取りした内容を整理し、簡単な語句や文を用いて学習を振り返る。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「③Communication」の場面

目標（第2時／全2時間） ●学習活動 ・教師の役割

自分の課題を解決するために、これまでの学習を振り返りながら**課題の解決方法や手順を考え、活動を行う上での条件設定を行い、既習の表現を用いてやり取りをすることができる。**

- 前時までの学習を振り返る。
 - ・ 場面を推測し、既習の表現を用いて、どのように表現できるかを考えられるよう**促す**。
- 指定された場面で、どのように経路を英語で表現し、伝えればいいのかを考える。
 - ・ 前時に習得した表現などを想起させ、既習の表現を生かして表現できるように**助言**する。
 - ・ ロールプレイをして、グループ内でどのように問題解決をしていくかを明確にできるよう**促す**。
- タブレットPCで場所や経路を探す。
 - ・ 生徒たちができる限り自力で伝えられるように、教師は**ファシリテーターに徹する**。
- 会話の内容を整理し、タブレットPCに打ち込む。
 - ・ 書いている途中で、他の生徒の参考となる文を提示するなどして紹介することで、クラス内で**共有できるようにする**。

既習の表現を用いて道案内をする姿

- グループ内でその場に行く方法を考えている。



- タブレットPCを使用し、情報を共有し合っている。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から授業に積極的な生徒が、「学び方」を再認識したことで、既習事項を会話の手段として使用していきたいと感じ、学習へのモチベーションを高めている様子が見られるようになった。

本単元前は周囲とコミュニケーションをあまりとろうとしていなかった生徒が、ペアやグループワークなどを通じて、簡単な英語を使用し、質問に答えたり、自ら質問したりすることができるようになった。

学級全体として、「学び方」のプロセスを意識することで、自らが問題発見をし、解決するようになり、更に学習を進めたいという意識の向上につながった。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、「学び方」のプロセスを明示することが、生徒の主体性を伸長し、より自立的に学び続ける助けになっていることが明らかになったことである。実践後も他の単元で学習のプロセスを意識したことで生徒がより自発的に学習する姿が見られた。課題は、「学び方」をいかに生徒に自覚させるかである。今後も「学び方」のプロセスやヒントとなるキーワードを大切にして授業実践をしていく。

中学校 第1学年 総合的な学習の時間 「西東京市 地域活性化プロジェクト」

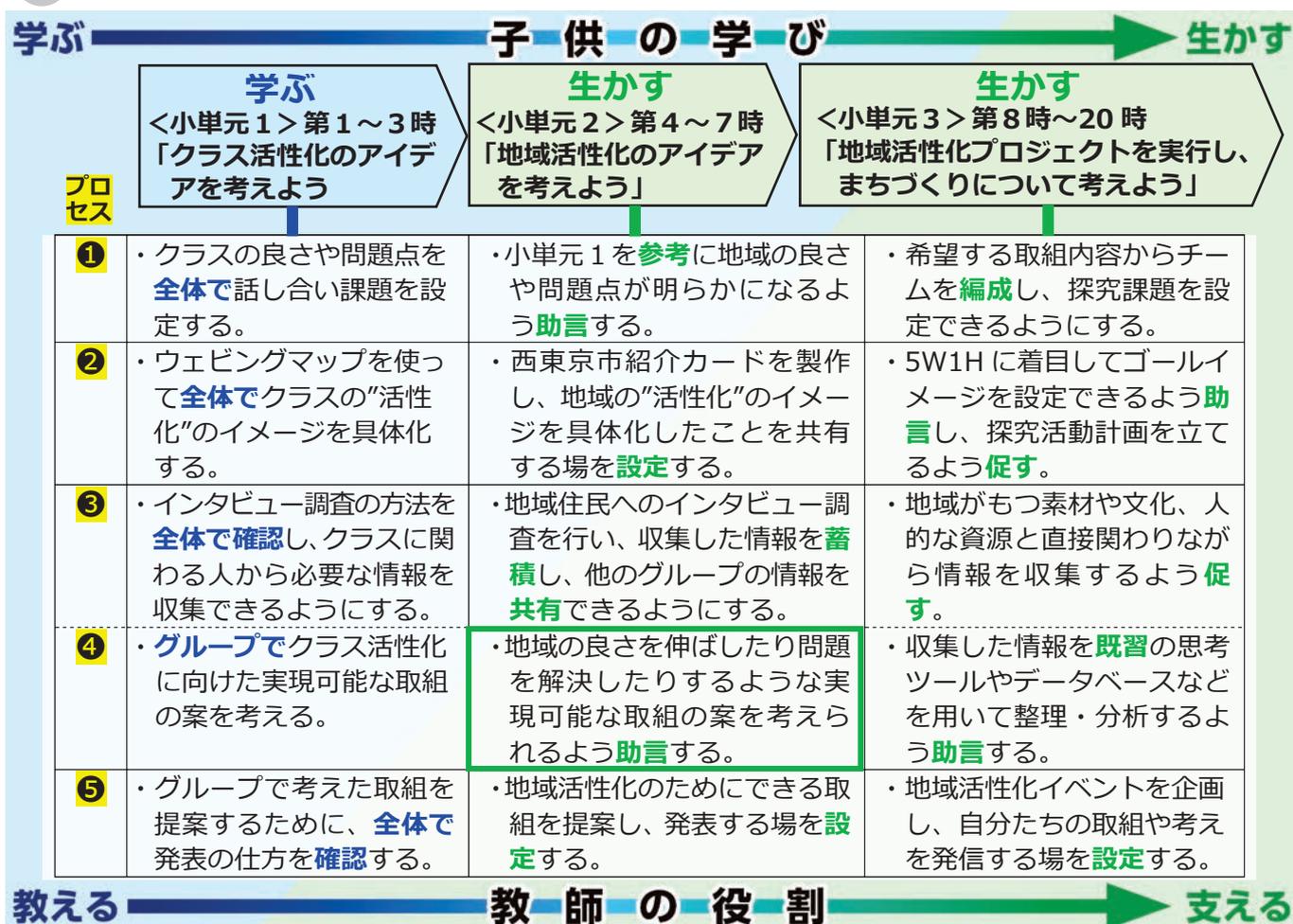
単元の目標

自分たちが住む地域（西東京市）の活性化に向けた取組を通して、地域の特徴や地域の人々の思いや取組について理解するとともに、**地域の良さや課題を見いだし地域の活性化について考え**、地域の良さを生かした活動に関心をもち、協働して取り組むことができるようにする。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①課題の設定 【課題の設定】 ・資料を比較したり、ゲストティーチャーの講話を聞いたり、話し合い活動で自由にアイデアを出し合ったりしながら、問題点等に気付く。
	予想・見通し	②見通し ・ウェビングマップ等を用いてゴール（目標）を設定し、見通しをもつ。
問題解決	課題の追究	③情報の収集 【情報の収集】 ・インタビュー調査等を行い、収集した情報を蓄積し、共有する。
		④整理・分析 【整理・分析】 ・課題解決に向けて思考ツール等を用いて整理・分析する。
	結論・振り返り	⑤まとめ・表現 【まとめ・表現】 ・まとめたことを発表し、新たな課題を発見し、改善・改良に生かす。 ・最終報告会で自分たちの取組や考えを発信する。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：生かす段階「④整理・分析」の場面

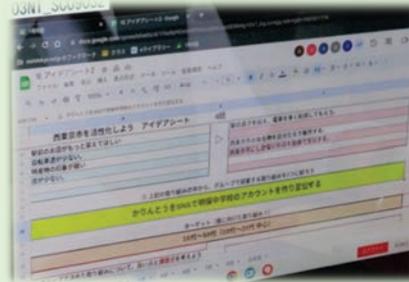
目標（第6時／全20時間） ●学習活動 ・教師の役割

地域の良さを伸ばしたり、問題を解決したりするような取組の**アイデアを出し合い、提示された条件を踏まえ、取組案を整理し、考えをまとめる**ことができる。

- 前時までの学習を振り返る。
 - ・ それぞれが考える“地域活性化”のイメージと、取組のアイデアの出し方を確認する。
- 西東京市の良いところや問題点を整理する。
 - ・ これまでに蓄積した資料等を**データベース化**し、いつでも参照できるようにしておく。
- 西東京市の良さを伸ばしたり、問題点を解決したりするような取組の**アイデア**を考える。
 - ・ 取組の条件を記載したヒントカードを**参考**にするよう**助言**し、取組案の実現可能性を確かめる。
- 小グループで考えた取組の**アイデア**を共有する。
 - ・ 互いに質疑応答をし合う**場を設定**することで、新たな課題発見につなげる。
- 本時の振り返りを行い、**次時の学習の見通し**をもつ。
 - ・ 本時で考えた取組内容を基に、地域活性化プロジェクトをスタートさせることを確認する。

実現可能な地域活性化の取組を考える姿

- 前時までに蓄積したデータ等を参考にしながら、地域の良さを生かして取組のアイデアを出し合っている。



- 提示された条件を踏まえ、共同編集機能を活用して取組案を整理し、考えをまとめている。

- 課題解決に必要な情報を整理・分析し、地域の活性化に向けて実現可能かつ具体的な取組をまとめ、表現している。



本単元での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から主体的に課題解決に取り組んでいた生徒が、単元を通して、クラスや地域の活性化のために自分たちができることを考え、建設的・批判的によりよい取組案を考えるようになった。

本単元前はすすんで課題を追究していなかった生徒が、身近なテーマから問題を見付ける方法などを学ぶことで、探究的な学習の面白さに気付き、すすんで活動に取り組むことができるようになった。

学級全体として、決まった答えのない問いに対して試行錯誤して解決を目指すという探究的な学習を続けていくことで、話し合い活動（学びの調整）の重要性に気付くことができるようになった。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、「どうすれば実現できるか」という視点で、解決の見通しをもつことで、自ら問題を発見し、解決していく力を養うことができたことである。課題は、どのように生徒に切実感をもって追究できるようにするかということである。年度末の報告会やイベントに向けて、生徒から地域人材と関わりをもち、必要感や切実感をもって探究的な学習に取り組めるようにしていく。

中学校 第1学年 特別活動（学級活動） 「よりよい学級生活にするために」

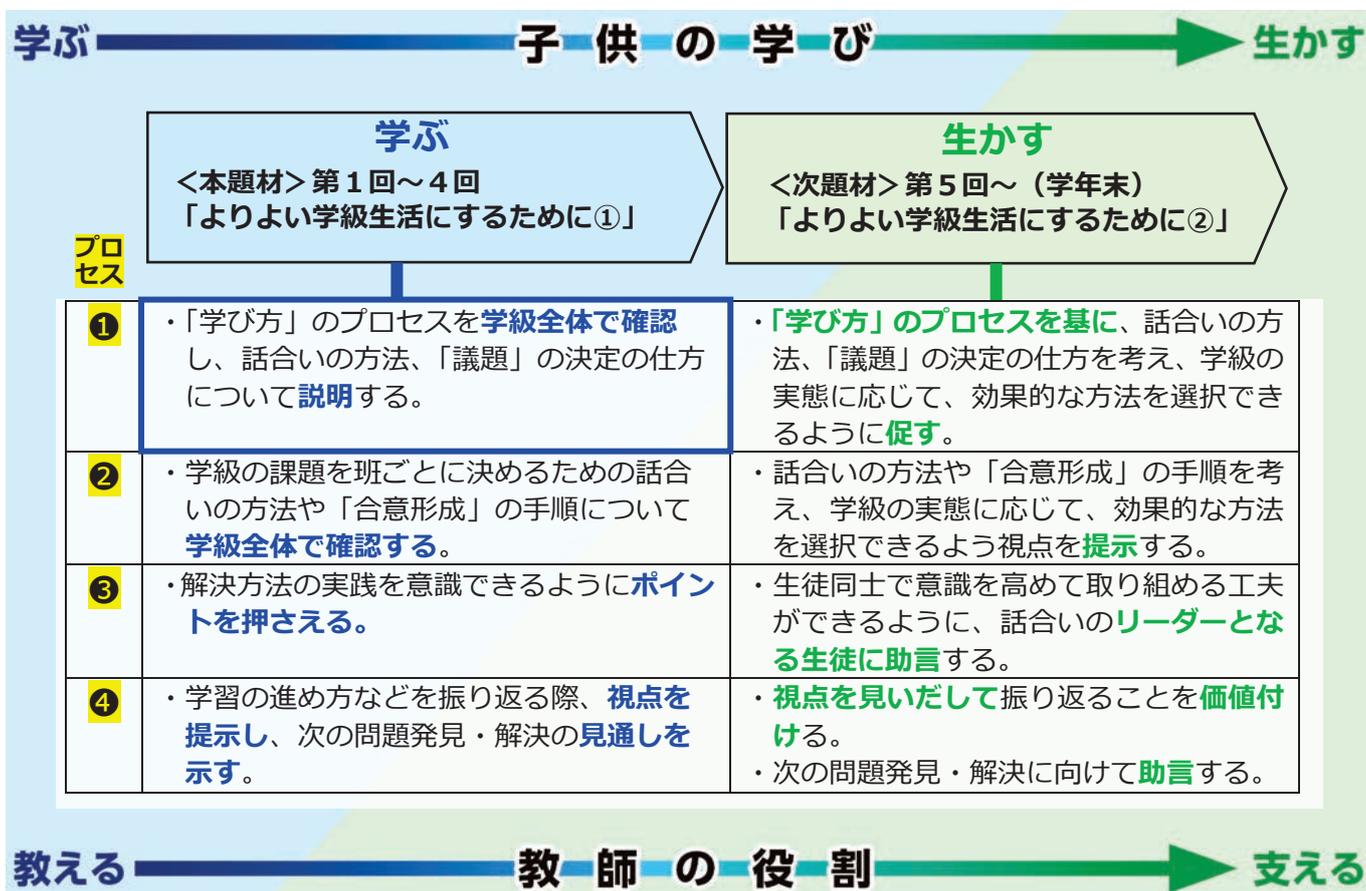
題材の目標

- (1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成のための手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- (2) 学級や学校生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践できる。
- (3) 生活の諸問題上の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図る。

「学び方」のプロセスの具体化

問題発見	課題の設定	①見付けよう 【問題の発見・確認】 ・学級や学校における生活をよりよくするための諸問題を見付け、「議題」を決定する。 ・解決に向けて自分の考えをもつ。
	予想・見通し	②話し合おう 【解決方法等の話し合い・解決方法の決定】 ・よりよい生活にするための問題の原因や具体的な解決方法などについて話し合う。 ・話し合い活動で具体化された解決方法等について「合意形成」を図る。
問題解決	課題の追究	③やってみよう 【決めたことの実践】 ・決定した解決方法や活動内容を責任もって実践する。
	結論・振り返り	④見直そう 【振り返り・次の課題解決】 ・実践を定期的に振り返り、結果を分析し、次の課題解決に生かす。 ・実践の継続や新たな課題の発見につなげる。

「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割



本時：学ぶ段階「①見付けよう」の場面

目標（第1時／全4時間）

● 学習活動 ・ 教師の役割

学級生活をよりよくするために、これまでの学級での生活における諸問題を見付け、その中から「議題」を学級全員で決定し、解決に向けて自分の考えをもてるようにする。

- 「学び方」のプロセスについての説明を聞く。
 - ・ プレゼンテーションソフトを活用し、「学び方」のプロセスについて視覚的に理解が深まるようにする。
- 学級目標の達成に向けて、学級の問題を考える。
 - ・ 学級の問題についての個人の意見を共有機能を使って様々な考えと比較できる環境を整える。
- 最も重要な問題を話し合い、「議題」として決定する。
 - ・ 話し合いの方向性が目標から逸脱しないよう、班ごとに確認する。
- 「議題」に対する解決方法を一人一人が考える。
 - ・ 共有機能やアンケート機能を活用し、各生徒の考えを共有し、整理できるように必要に応じて確認する。
- 本時の振り返りを行う。
 - ・ 「学び方」と「本時の目標」の振り返りの時間を確保し、話し合い中の望ましい言動について価値付ける。

議題を自分事として捉え、考える姿

- 「学び方」のプロセスを理解し、学級生活をよりよくするために問題を見付けている。



- 話し合いの際に、積極的に意見を述べたり、友達の意見を聞いたりしている。



- 「議題」を自分事として捉え、その解決策を考えている。



本題材での問題を発見し、解決する子供の姿

日頃から、学級委員の経験から「学び方」についてある程度理解できていた生徒が、議題を決定したり、解決方法を考えたりする活動の中で、「学び方」を比較しながら、調整していく力が身に付いた。

本題材は、「学び方」のプロセスについての理解が曖昧だった生徒が、単元を通して、「学び方」のプロセスを意識して活動に取り組む姿勢が身に付いた。

学級全体として、学級にとって最適な「学び方」となるように、一人一人が「学級会」の方法を調整しよりよい方法を学級全体に提案するようになった。

実践の振り返りとこれからの授業

成果は、生徒が「学び方」のプロセスを意識できるようになり、学びの自己調整をする力が身に付いたことである。課題はそのプロセスを生徒に内在化させる必要があることである。今後は、生徒が内在化された「学び方」のプロセスを、問題に応じて自由自在に調整し、その問題を主体的に解決していけるように指導していく。

問題発見・解決能力の育成

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 教授 田村 学

1. 求められる「問題発見・解決能力」の育成

現在の学習指導要領が明確にしたことは、一人一人の子供に育成すべき学力は、実際の社会で活用・発揮できるものであり、目の前の問題の解決において使われるものでなければならないということだ。一つ一つの事実に関する知識をたくさん蓄積し、間違えなく、瞬時に、安定的に、再生することを学力と考えていた時代は過去のものとなった。もちろんそうした能力を否定するわけでもないし、必要がないと主張するわけでもない。しかし、そうした能力は目の前の情報端末の方がはるかに優れているし、そのパフォーマンスには格段の差があることは誰もが納得するのではないだろうか。

私たちに求められる学力は、知識を活用・発揮し、目の前の問題を解決することである。そのために、知識を獲得することも必要になるのだろうし、知識を自由自在に使いこなせるようになることも大切になる。加えていえば、そうした知識の活用が自らの意志で、他者との協働などを通して、適正かつ適切に行われることも欠かせない。

この問題解決に関する能力については、学習指導要領総則第2の2の(1)に以下のように示されている。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
(1)各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。（アンダーラインは筆者）

学習指導要領で、資質・能力を「○○力」として明示している箇所はここだけである。言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などを学習の基盤となる資質・能力として示し、その育成の大切さを明らかにしている。

ここまで記してきたように、日常の暮らしや実際の社会に存在する問題を解決する力が求められていることは明らかであり、そうした学力を教育課程全体を通して育成することが、今まさに求められているのである。

2. コロナ禍で明らかになった「問題発見・解決能力」の重要性

新型コロナウイルス感染症に対応する中で明らかになったことは、未知の状況において、自らの知識を活用・発揮しながら、柔軟に対応できる人材が求められ

ており、そうした人材こそが社会で活躍し、社会を創造していくということである。

知識の習得はもちろん重要である。しかし、単に暗記していればよいわけではない。目の前に広がる未知の状況や問題状況を解決するために、異なる多様な他者と協働しながら、自らの知識を自在に活用・発揮していくことこそが重要なのだ。

そのためにも、バラバラであるがゆえに静的で固定的になりがちな知識イメージを、つながり結び付くことで生まれる動的で可変的な知識イメージへと転換していくことが求められてくる。知識を関連付けて精緻化することが必要となる。

目の前の課題に対して、前向きに、積極的にチャレンジする子供。諦めずに、粘り強く取り組み続ける子供。様々な立場の人と力を合わせて解決に向かう子供。そんな子供に育ってほしいと考えるのが、誰にも共通する学びの姿であろう。主体的で対話的な学びが深い学びを実現し、ダイナミズムのある駆動する知識を生成していく。問題を発見し、解決に向けて全力で立ち向かうことのできる子供の育成こそが期待されている。

おそらく、学校で学ぶ様々な学習は、最終的には、自らの力で問題を発見したり、その解決に向かってチャレンジしたりすることができるようになることを目指していると言っても大袈裟ではない。このことが、今回の新型コロナウイルス感染症の流行の中で、一層明白になった。目の前で日々刻々と変化する状況に対応する力が必要になる。絶対の迫り方もなければ、教科書通りに行くことも難しい、誰でもできる取扱説明書が用意されているわけではない。受け身の姿勢では、どうにも対応できない。

これからの社会で求められる資質・能力は、まさに「問題発見・解決能力」と言うことができる。身近な問題の解決に向けて、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力が求められている。そして、そこでは、絶対の正解よりも、納得解や最適解が期待されている。そうした学習の繰り返しの中でこそ、未来社会を創造する主体が育っていくものと考えることができる。

自ら設定した課題に対して、自ら学び共に学び、その成果を自らとつなげる学習活動、つまり学習過程、プロセスが重要となろう。

3. 「問題発見・解決能力」を育成するプロセスの充実

2. に記したとおり、「問題発見・解決能力」を育成するには、学習過程としてのプロセスが大切なポイントになる。例えば、生活科において資質・能力を育成するプロセスは、好奇心や探究心、対象への興味や親しみ、憧れなどからくる「やってみよう」「してみよう」

たい」「できるようにになりたい」といった自分の思いや願いをもち、そのために具体的な活動や体験を行い、直接対象と関わる中で感じたり考えたりしたことを表現したり、行為したりしていく過程と考えることができる。総合的な学習の時間では、「①課題の設定」→「②情報の収集」→「③整理・分析」→「④まとめ・表現」の探究の過程としてイメージすることができる。理科には、8つの問題解決のプロセスがあるし、算数・数学では数理の世界のプロセスと生活現実の世界のプロセスが二つのループとなって形成されている。

これらのプロセスは、各教科等によっていくらか違いがあり、例えば、社会科や算数科、理科などでは問題発見・解決の過程、国語科などでは解釈・形成の過程、図画工作などでは構想・創造の過程などと整理することもできる。「問題発見・解決能力」を育成するためには、各教科等固有のプロセスの中で、問いを持ったり課題を設定したりすることと問いや課題の解決に向かうことの意図的設定がポイントとなる。この発見と解決を強調したプロセスの中で、それまでに身に付けていた資質・能力を存分に活用・発揮し、資質・能力が関連付いたり、組み合わせさったりして精緻化されていく。その結果、各教科等で目指している深い理解に至り、異なる状況でも活用でき、安定的で持続的な資質・能力が確かに育成されていく。

4. 東京都多摩地区教育推進委員会の研究成果

今年度の東京都多摩地区教育推進委員会が行った実践研究の価値は、各教科等の学習過程としてのプロセスを問題発見・解決の過程を意識したプロセスに調整したところにある。このことにより、各教科等が育成を目指す資質・能力はもちろん、同時に「問題発見・解決能力」の育成に迫ることが可能となった。

また、プロセスの中で育成が可能となる「問題発見・解決能力」を具体的に定義したことも重要な実践研究の価値である。1. に記したように学習指導要領では言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力と明示してはいるものの、その解説では問題発見・解決能力だけが具体的な定義を示していない。こうした「問題発見・解決能力」の内実を明らかにしようとする取組は、実践研究での成果検証を支えるものとなっている。さらには、各教科等を横断した資質・能力の育成を具現するものにもつながっている。

今年度の実践研究が行った「問題発見・解決能力」の定義は、全国各地の実践研究や新たな教育課程の基準の改訂に向けて、一つの貴重な取組となっていくものと期待できる。本実践研究から多くを学び、各学校の各教室での実践研究の参考にされることを強く願っている。

5. 未来社会を想像する主体者としての自覚を 確かにする「探究プロセス」

こうした「問題発見・解決能力」を中核に据え、学校全体で積極的に実践研究に取り組んでいる学校がある。その学校では、各教科における「問題発見・解決能力」の育成に止まらず、子供が地域の課題を解決し、地域の活性化に向けてチャレンジする総合的な学習の時間の実践なども生まれてきている。総合的な学習の時間の「探究」では、そうした実践が力強く生み出され、学校や地域、子供の成長の姿を後押しし始めている。

このことは、実は、「未来社会を創造する主体としての自覚」を確かにしていくプロセスと考えることができる。「探究」は変化する社会に対応する人材を育成することにとどまらない。社会の変化をただ単に受け身になって受容するだけではなく、未来の社会、将来の社会を、自らの手で創り上げ、構築していくという極めて能動的な子供の姿に大きく寄与するものとして力強い実践が生まれつつある。

総合的な学習の時間における 探究のプロセス	
探究のプロセス(総合的な学習の時間)	読解のプロセス(PISA型読解力)
①課題の設定: 体験的な活動等を通じて課題意識をもつ	
②情報の収集: 必要な情報を取り出したり、収集したりする	→情報へのアクセス・取り出し
③整理・分析: 収集し、取り出した情報を整理、分析する	→統合・解釈
④まとめ・表現: 気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する	→熟考・評価

この「探究のプロセス」が、PISAの「読解のプロセス」と深くシンクロしている点は、極めて興味深い。

4. に記した「問題発見・解決能力」と各教科等で育成を目指す資質・能力とは、決して相反するものではない。むしろ高い親和性を保持しているものと考えることが自然である。

「問題発見・解決能力」の育成に向けた取組は、各教科等の資質・能力を確かにしていくとともにこれからの社会を担う人材の育成に大きく貢献する。教育課程全体を視野に入れた実践、各教科等を横断する実践、各教科等のプロセスを意識した実践、アウトプットによる活用・発揮を重視した実践などが広く多摩地区に展開されていくことを期待している。

【参考文献】

- ・「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(令和3年1月、中央教育審議会)
- ・拙著 「深い学び」(東洋館出版社)
- ・拙著 「学習評価」(東洋館出版社)
- ・拙著 「探究モードへの挑戦」(人言洞)

研究のまとめ

「問題発見・解決能力」の育成を図り、目指す子供像を達成するための「4つの提案」について、20本の実践事例からそれぞれの提案のよさやポイントが明らかになった。

1 「問題発見・解決能力」を定義し、評価したよさ

委員の声〈小学校〉

- 児童と単元のゴールを設定したことで、見通しをもってすすんで気付きを伝えたり、共有したりする姿が見られた。



「問題発見・解決能力」を定義したよさは、定義したことにより各教科等で具体的に問題発見・解決する子供の姿を具体的に想定し、評価することができたことである。また、問題解決を重視する教科や思いや願いを重視する教科など、各教科等によって特性がありながらも、教科等横断的な視点で「問題発見・解決能力」の育成について授業を見直すことができた。

2 各教科等の「学び方」のプロセスを具体化したよさ

委員の声〈中学校〉

- 「学び方」のプロセスを分かりやすくキーワードにしたことで、「学び方」のよさを実感し、「学び方」を学ぶ姿勢が生まれた。



「学び方」のプロセスを具体化したことの一歩のよさは、子供が「学び方」を意識して、自信をもって「どのように学ぶか」を実感しながら学べることである。また、本研究全体として「学び方」のプロセスを示しつつも、各教科等の特性を踏まえて「学び方」のプロセスをキーワードしたことにより、他教科等と関連させて学びを充実させることができた。

3 「学び方」の理解や自覚を重視した子供の学びのよさ

委員の声〈小学校〉

- 問いをもたせることを重視したことで、自分の考えに自信をもち、積極的に友達の考えと比べて考えを深める児童が増えた。



「学び方」の理解や自覚を重視したことで、教科等の学びだけではなく、日常的に「学び方」を生かせることができるようになった。子供たちが将来自立的に学び続けるために、「こうすればこうなるはず」という「学び方」を再現し、応用して活用できるようになることが期待される。

4 「学び方」を学ぶ段階と生かす段階での教師の役割のポイント

委員の声〈中学校〉

- 今後も生徒一人一人の様子から実態を把握し、適切に指導や支援ができる授業をデザインしていく。



教師が単元等の内容や時間のまとまりで、「子供が『学び方』を学び生かすデザイン」をスパイラルに考えることにより、問題発見・解決能力を育成することができた。これからの教師の役割は、子供たちが自立的に学び続けることができるように、子供の実態や教科等の特性を踏まえて、常に適切な指導や支援を考え、意識を変えていくことであると、実践を通して実感した。

委員名簿

委員長

東京都多摩教育事務所
所長 小島 貴弘

副委員長

東京都多摩教育事務所
指導課長 吉成 嘉彦

部会長

西東京市立田無小学校
校長 前田 元

部会長

昭島市立瑞雲中学校
校長 山下 久也

特別委員

國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 教授 田村 学

委員

小学校

〈実践事例 1〉国語	調布市立緑ヶ丘小学校	主任教諭	吉田 知美
〈実践事例 2〉社会	東久留米市立第三小学校	主任教諭	中島 良
〈実践事例 3〉算数	羽村市立羽村東小学校	主任教諭	中村 真也
〈実践事例 4〉理科	府中市立府中第一小学校	主任教諭	本地 由佳
〈実践事例 5〉生活	日野市立日野第一小学校	指導教諭	浅見 美之
〈実践事例 6〉音楽	稲城市立稲城第四小学校	主任教諭	木下 慎介
〈実践事例 7〉体育	東村山市立八坂小学校	主幹教諭	市川 洋一
〈実践事例 8〉特別の教科 道徳	小金井市立緑小学校	主幹教諭	杉山 祐次郎
〈実践事例 9〉総合的な学習の時間	八王子市立愛宕小学校	主任教諭	熊沢 敏行
〈実践事例 10〉特別活動	小平市立小平第三小学校	主任教諭	田中 宏幸

中学校

〈実践事例 11〉国語	福生市立福生第二中学校	主幹教諭	小口 寿輝
〈実践事例 12〉社会	西東京市立田無第四中学校	主幹教諭	窪田 将樹
〈実践事例 13〉数学	町田市立武蔵岡中学校	主任教諭	高野 靖
〈実践事例 14〉理科	三鷹市立第二中学校	主任教諭	永尾 啓悟
〈実践事例 15〉音楽	東大和市立第四中学校	主幹教諭	相馬 孝洋
〈実践事例 16〉美術	府中市立府中第四中学校	主幹教諭	小林 功治
〈実践事例 17〉技術・家庭(技術分野)	福生市立福生第三中学校	主任教諭	久保田 翔子
〈実践事例 18〉外国語	武蔵野市立第一中学校	主任教諭	永井 剛
〈実践事例 19〉総合的な学習の時間	西東京市立明保中学校	教諭	大久保 成展
〈実践事例 20〉特別活動	小金井市立小金井第二中学校	主任教諭	山浦 龍太郎

事務局 東京都多摩教育事務所 指導課

統括指導主事	鈴木 輝	教育専門員	松本 信之
指導主事	嶺井 勇哉	教育専門員	辻 泰成
指導主事	川島 征也	教育専門員	小林 正隆
指導主事	小泉 裕美	学校教育指導専門員	富田 広
指導主事	小谷 明奈	学校教育指導専門員	渡部 公威
指導主事(併任)	溝口 直哉		
指導主事(併任)	野田 豊		

東京都多摩地区教育推進委員会
第29次計画(通算第50年次)報告書

令和6年2月
編集・発行 東京都多摩教育事務所指導課
〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3
TEL 042-524-7222
印刷 社会福祉法人 東京ココエー ココエー印刷

登録番号 5(2)

